

大阪私学
教育情報化研究会



一般財団法人
草の根サイバーセキュリティ運動
全国連絡会
Grass roots Activity for cyber
SECurity - JAPAN

高校生 ICT Conference 2017

高校生ICT Conference 2017

高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～

開催報告書

主催

安心ネットづくり促進協議会
大阪私学教育情報化研究会
一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構
一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会

共催

内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、消費者庁

2017年3月9日



2017

(高校生 ICT Conference は経済産業省等が主宰する「情報化月間 2017」の登録行事です)

目 次

1. 高校生 ICT カンファレンス 2017 開催概要	3
2. 高校生 ICT Conference 2017in 札幌 開催概要	6
3. 高校生 ICT Conference 2017 in 帯広 開催概要	17
4. 高校生 ICT Conference 2017 in 宮城 開催概要	21
5. 高校生 ICT Conference 2017 in 石川 開催概要	23
6. 高校生 ICT Conference 2017 in 長野 開催概要	25
7. 高校生 ICT Conference 2017 in 新潟 開催概要	36
8. 高校生 ICT Conference 2017 in 東京 開催概要	39
9. 高校生 ICT Conference 2017 in 神奈川 開催概要	43
10. 高校生 ICT Conference 2017 in 静岡 開催概要	47
11. 高校生 ICT Conference 2017 in 三重 開催概要	49
12. 高校生 ICT Conference 2017 in 大阪 開催概要	53
13. 高校生 ICT Conference 2017 in 奈良 開催概要	58
15. 高校生 ICT Conference 2017 in 山口 開催概要	62
16. 高校生 ICT Conference 2017 in 高知 開催概要	64
17. 高校生 ICT Conference 2017 in 福岡 開催概要	67
18. 高校生 ICT Conference 2017 in 大分 開催概要	69
19. 高校生 ICT Conference 2017 in 鹿児島 開催概要	73
20. 高校生 ICT Conference 2017 サミット 開催概要	76
21. 高校生 ICT Conference 最終報告会 開催概要	80

1. 高校生 ICT カンファレンス 2017 開催概要

名 称：	高校生 ICT Conference 2017 テーマ：高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～
主催：	<ul style="list-style-type: none"> ● 安心ネットづくり促進協議会 ● 大阪私学教育情報化研究会 ● 一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構 ● 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会 ● 仙台城南高等学校（宮城のみ） ● 特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム（神奈川のみ） ● 長野県教育委員会（長野のみ） ● 福岡県青少年インターネット適正利用推進協議会（福岡のみ） ● 公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所（大分のみ） ● 大分県（大分のみ）
共催：	内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、消費者庁 十勝毎日新聞社（帯広のみ）、みやぎの ICT 教育研究専門部会（宮城のみ）、新潟県サイバー脅威対策協議会（新潟のみ）、学校法人中村学園専門学校静岡電子情報カレッジ（静岡のみ）、帝塚山大学（奈良のみ）、特定非営利活動法人なら情報セキュリティ総合研究所、大分県教育委員会（大分のみ）、大分県高等学校 PTA 連合会（大分のみ）
後援：	一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会、全国高等学校情報教育研究会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、一般財団法人マルチメディア振興センター、北海道、北海道教育委員会、北海道高等学校 PTA 連合会、北海道私立中学高等学校協会、北海道青少年有害情報対策実行委員会、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、宮城県高等学校 PTA 連合会、東北工業大学、新潟県教育委員会、新潟県高等学校長協会、新潟県高等学校 PTA 連合会、石川県、石川県教育委員会、石川県高等学校長協会、石川県高等学校 PTA 連合会、北陸携帯電話販売店協会、静岡県、静岡県教育委員会、静岡県公立高等学校 PTA 連合会、東京都教育委員会、東京都高等学校情報教育研究会、東京都公立高等学校 PTA 連合会、神奈川県、神奈川県教育委員会、三重県、三重県教育委員会、三重県警、大阪府高等学校情報教育研究会、兵庫県私学教育情報化研究会、奈良県、奈良県情報教育研究会、奈良県教育委員会、青少年を有害環境から守る奈良コンソーシアム、山口県教育委員会、山口県私立中学高等学校協会、高知県教育委員会、高知新聞、福岡県公立高等学校長協会、福岡県私学協会、福岡県公立高等学校 PTA 連合会、鹿児島県教育委員会、鹿児島県警
協賛：	グーグル合同会社、株式会社サイバーエージェント、株式会社ディー・エヌ・エー、株式会社ラック、グリー株式会社、LINE 株式会社、株式会社インテグラル、エースチャイルド株式会社、一般社団法人情報教育研究所、Twitter Japan 株式会社、株式会社ベルパーク、株式会社メディア開発綜研
協力：	アルプスシステムインテグレーション株式会社、株式会社内田洋行、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、デジタルアーツ株式会社、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、ストップイットジャパン株式会社、

	学校法人東京電機大学
開催目的：	<p>高校生 ICT Conference は、2011 年度に「ICT プロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」として大阪でスタートしました。</p> <p>翌年には東京開催を加え、計 17 校 79 人の高校生が参加、その後順次全国に拡大、全国規模での開催となり、2017 年度は、17 拠点にて開催し、計 128 校 526 人の高校生が参加しました。</p> <p>高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。</p> <p>【本年開催テーマのコンセプト】</p> <p>IT やインターネットは、その発明の理由は別としても、民間利用においては、それらの技術を用いることで、人々の生活や事業をより効率よく、便利に営めることを目的としています。情報技術に限らず、多くの発明品は同様の背景を持ちながらも、便利さゆえに、安易な利用や悪事への利用などにより、本来の目的にはそぐわない結果を及ぼすこともあります。今年度の高校生 ICT Conference では、私たちの生活を更により良くするために、どのように ICT を利活用すれば良いか、という視点でテーマを設定しました。当然ながら、有意義な利活用とは表裏一体で、負の側面についても配慮が必要であり、より心豊かな生活を実現するために ICT の利活用における「光と影」について、次世代を担う高校生が自ら考える機会とすることを目的とします。</p> <p>※平成 21 年 4 月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まった。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政府に於いても施行状況の検討が進められている。一方、新学習指導要領が平成 23 年度の小学校を皮切りに、平成 24 年は中学校、平成 25 年度は高等学校で全面実施される。また、急速に普及を始めたスマートフォンや新しい ICT（情報通信技術）サービスにおいて、青少年が健全に ICT を利活用できるように育成するため、青少年への指導に加え、保護者や教職員への「情報モラル教育」の啓発活動が重要視されている。今年度は、スマートフォンの登場などにより急速に変化したインターネット利用環境下における諸問題について議論し、高校生が家庭や学校で取組むべき課題とともに、行政、事業者等への要望について本取組で提案し参考に資する。</p>
開催の概要：	<p>【各開催地での内容】 ※日程は、2. 地域開催の欄をご覧ください。</p> <p>(1) 挨拶 (2) 講演 (3) アイスブレイク (4) 熟議 (5) グループ発表 (6) 講評 (7) サミット参加者発表</p>

	<p>【東京サミット】</p> <p>(1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表 (5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表</p> <p>【最終報告会】</p> <p>(1) 各府省庁への提言発表 (プレゼン) (2) 質疑応答・意見交換</p>
各開催地 募集人員等：	募集参加生徒 30名 (各開催地により変動あり) 募集見学者各回 30名 (各開催地により変動あり)
参加参観方法：	参加費・参観無料 [要事前登録]
高校生 ICT Conference2017 実行委員会：	<p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> 米田謙三 (大阪私学教育情報化研究会 副会長) <p>【コアメンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> 石田幸枝 (公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT 研究会理事・消費者団体訴訟室長) 猪股 富美子 (お茶の水女子大学 人間発達科学研究所) 植田 威 (特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事) 小城 英子 (聖心女子大学) 齋藤長行 (青山学院大学 株式会社 KDDI 総合研究所) 他、関係者団体、事業者等 <p>【事務局】</p> <p>安心ネットづくり促進協議会 〒104-0031 東京都中央区京橋三丁目 14 番 6 号 斎藤ビル 2 階 TEL: 03-3562-8850 FAX: 03-3562-1180</p>

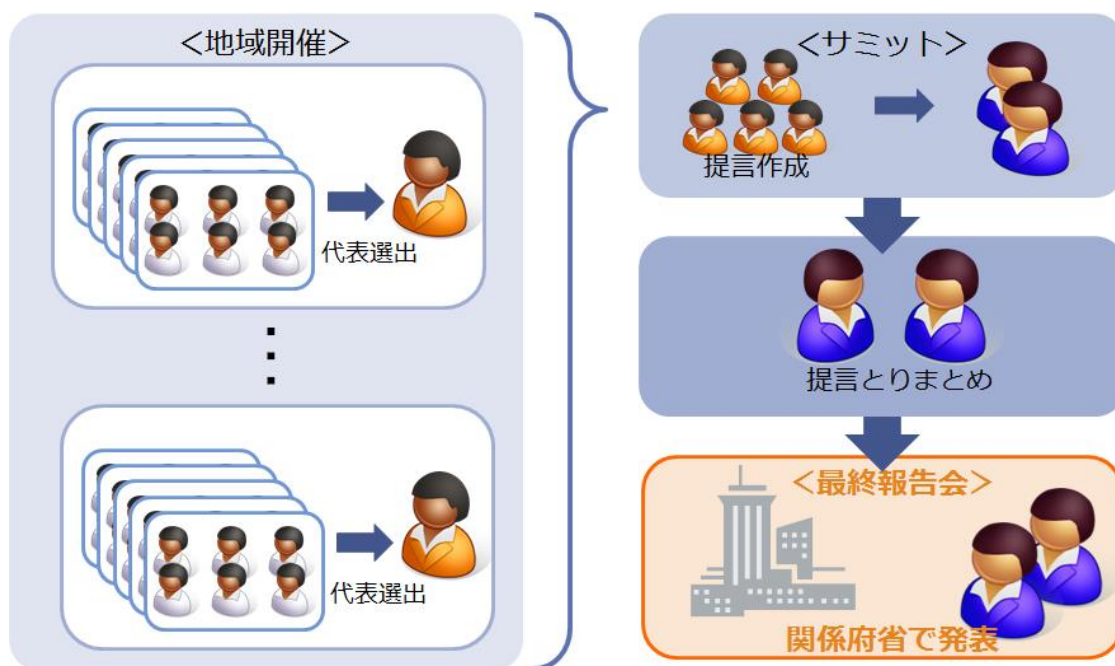
<高校生 ICT Conference 2017 地域開催>

高校生 ICT Conference 地域開催では参加した高校生がテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜しました。

	地域	開催日時	会場
地域 開催	北海道 (札幌)	2017年10月22日 (日) 11:00-17:00	札幌ユビキタス協創広場 U-cala
	北海道 (帯広)	2017年10月15日 (日) 11:00-17:00	とまちプラザ
	宮城	2017年10月21日 (土) 10:00-17:00	東北工業大学 一番町ロビー
	石川	2017年9月23日 (土) 10:00-17:00	石川県教育会館
	長野	2017年9月30日 (土) 10:00-17:00	安曇野市明科公民館
	新潟	2017年8月17日 (木) 11:00-17:00	新潟コンピュータ専門学校
	東京	2017年10月7日 (土) 10:30-17:00	東京ユビキタス協創広場 CANVAS
	神奈川	2017年9月10日 (日) 10:00-17:00	学校法人岩崎学園
	静岡	2017年9月23日 (土) 10:00-17:00	静岡電子情報カレッジ
	三重	2017年9月30日 (土) 10:00-15:00	三重県庁

大阪	2017年9月24日(日) 10:00-17:00	大阪ユビキタス協創広場 CANVAS
奈良	2017年10月1日(日) 10:00-17:00	帝塚山大学 学園前キャンパス
高知	2017年8月14日(月) 9:30-16:30	高知県教育センター分館
山口	2017年9月24日(日) 10:00-17:00	サビエル高等学校
福岡	2017年8月26日(土) 11:30-17:00	都久志会館
大分	2017年8月27日(日) 10:00-16:00	アイネス、大分県消費生活・男女共同参画プラザ
鹿児島	2017年8月26日(土) 10:00-17:00	鹿児島大学
東京サミット	2017年11月3日(金)13:00-17:00	東京電機大学千住キャンパス
最終報告会	2017年12月11日	内閣府、総務省、文部科学省

高校生 ICT Conference 2017 サミットで検討された提言を、選出された代表者が報告用にとりまとめ、関係府省庁にて報告を行うとともに、関係府省担当者との意見交換によりコミュニケーションを諮りました。



2. 高校生 ICT Conference 2017in 札幌 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など85名の参加者を得て、「高校生が考える心豊かな生活～ICT×(家族・学校・地域)～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>主旨説明 関西学院千里国際中等部 米田 謙三 様</p> <p>高校生 ICT Conference の意義や目的とあわせて、本日の流れについて紹介しました。また、11月の東京サミットに送り出す代表校選出の方法についても紹介しました。</p>
----	--

開会の挨拶

・北海道総合通信局情報通信部電気通信事業課長 宮腰 宗一 様

総務省の取り組みの中のIoTについて説明をし、モノがインターネットとつながるとどのような利便性があるのか、教育や防災、農業など様々な分野ごとに事例を用いて説明をいただきました。

また、他言語翻訳が可能なボイストラについて、交番や消防などで活用されている事例を用いながら説明をいただきました。

・北海道高等学校PTA連合会 会長 新井田 寛 様

今回、参加してくれた方や企画、運営など取りまとめてくれた方へ感謝の言葉を述べ、徐々にこのような機会が増えれば世の中が変わっていくのではないかとのお話しをいただきました。

また、今回のテーマは過去のテーマ（トラブル予防など）に比べて前向きなテーマとなっているので、みなさんの生活が心豊かになるような意見交換になるのではないかとお話しいただきました。

そして、人との出会いや幅広い知識をどんどん積極的に身につけ経験を積んでいき、その中から幸運や偶然を掴むことができる能力を身につけてほしいとのお話しをいただきました。

第一部：事業者講演

株式会社サイバーエージェント メディアサポート室 室長 中村 広毅 様

インターネットサービスに関する『光と影』についてお話しをいただきました。

①光

・タレントブログでもあるように、結婚や出産報告など明るい話題や悲しい話題を個人が世界に向けて自由に情報発信することができる。

・一個人がインターネットを利用してメディア媒体を作ることができるようになった。

・LINE やツイッター、有名人のブログに気軽にコメントをつけたり、つけてもらったりなど個人間のコミュニケーションツールとなっている。

②影

・トラブルに遭わないために、個人情報を書かない、載せない。

・例えば、発売前の内容を勝手にブログ等に載せてしまうなど、著作権に引っかかり罰せられる可能性もある。

・例えば、「〇〇を食べると絶対〇kg 痩せる」など効果効能を断定的に表現して商品を紹介してしまうと、薬事法に引っかかることもある。

・誹謗中傷を載せてしまうと罰せられる可能性もある。

また、『プロバイダ責任制限法』についてお話しをいただきました。インターネットに載せた写真は絶対に消すことはできないという認識がされているが、インターネット上で誹謗や中傷された場合は、管理者に問い合わせ、誹謗や中傷されたことを削除することを申請することができるとの説明をいただき、日本国内で提供さ

れているサービスの多くはこのような対策をとっている場合が多いので覚えておいてほしいとの助言もいただきました。

さらに、インターネットサービスを利用する場合は、利用規約を一度読み、使い方や何が禁止されているのか、被害にあった場合の対処方法など確認してほしいとのお話しをいただきました。『ネットと現実と同じ現実で、別世界ではありません。』とのお話しをいただき、インターネット上に投稿する前にもう一度考えることを心がけ、インターネットを正しく楽しく使ってほしいとのお話しをいただきました。

最後に、グループ熟議では、テーマに基づいて、自分たちの生活の中で今後どのようなテクノロジーができればいいのかなど考えながら熟議に参加してほしいとの助言をいただきました。

参加校

参加校ごとに簡単な自己紹介を行いました。また、ファシリテーターの方々についても自己紹介を行いました。その後、7つにグループ分けをしました。

第二部：グループ熟議

各グループに分かれ、一般社団法人 LOCAL、北海道情報大学、公益社団法人 全国消費生活相談員協会の方々からファシリテーターとなり、熟議を開始しました。

高校生たちは今回のテーマに基づいて、自分たちが考えていることをそれぞれ発表し、活発に意見を出し合いました。出された意見を付箋紙に簡単に記載し、模造紙に貼り付け整理していきながら、さらに意見を出し合うなど、積極的な意見交換をしていました。最後は、各グループでまとめてプレゼンテーション資料を作成していききました。

また、参加している企業の方々からも的確な助言をいただきました。

第三部：グループ発表（各グループ 3分程度）

各グループの発表では、スクリーンに映したプレゼンテーション資料と模造紙を活用しながら発表を行いました。

その後、引率の先生と各校の生徒代表が集まり、11月3日の東京サミットに行く代表校を選ぶ投票を行いました。その結果、北海道札幌東豊高等学校が代表校に選ばれました。

（グループ発表概要）

第1班 テーマ 「便利とは豊かなのか？」

（ICTを使用して豊かにする方法）

地域（バス）編について

- ・どのくらい遅れているのかわかるようにする。
- ・バスがどこにいるのかわかるようにする。
- ・バスに乗りすぐにお勧めの車内の位置を音声で伝えるようにする。
- ・バスカードのチャージを可能にする。

学校編について

- 学校のホームページをもっと改善させる。
例・時間割が見れるようにする
 - 図書館や学校のイベント情報を発信する
 - 各学年ごとのお知らせがほしい
- オンライン集会をできるようにする。
- スマホやパソコンで通信授業をできるようにする。

家族編について

- 家の中の状況を監視カメラなどで見れるようにする。
- 無線充電をできるようにする。
- 時計を電波時計にする。

(豊かさに潜む闇)

地域（バス）編について

- 席の自由がなくなる。
- バスのチャージにクレジットカードが必要でチャージするまでが大変。
- どこからどこまで居るのか、というのは個人情報なので難しい。

学校編について

- 家から出なくなってしまう。
- コミュニケーションが取れない。
- 授業内容が聞けない。
- いたずらする人が出る。

家族編について

- 監視カメラが勝手に使われるかもしれない。
- 無線充電に対応する機種がまだ少ない。

(まとめ)

- 前もって知ったことで楽になり、時間が空き、前もって自分の計画を立てられる。
- 学校生活が校舎だけでなく地域にも広がる。
- 障害者の人にも優しくなる。

第2班 テーマ 「コミュニケーションについて」

(豊かとは)

- お金を持っていたら、色んなものを買うことができ、豊かになる。
- 感性が豊か
- インターネットの利用によって、知識も豊かにすることができる。

(コミュニケーション・SNS とは)

- ・スマートフォンの普及によって、電話やメールだけでなく、ツイッターやフェイスブックなどによる連絡手段が増えた。
- ・翻訳機能の利用によって、外国人とのコミュニケーションを取ることも簡単になった。

(課題)

- ・画面でのやり取りのため、相手の顔が見えず、相手の感情がわからない。
- ・ネットでの誹謗や中傷も課題の一つ。
- ・家族についての改善策としては、家族と会話をする時間を作り、注意喚起をすることで友達に対して暴言を言う人も少なくなる。
- ・学校についての改善策としては、インターネットの安全講話を定期的に行い、インターネットの使い方を確認する。
- ・地域についての改善策としては、地域との関わりが減ってきているので、地域と高校生の交流の機会を増やす。

第3班 テーマ 「ICT × 生活 (家族・学校・地域) ～インターネットと豊かな生活～」

(心の豊かさとは)

- ・楽しい
- ・心がわくわくする
- ・安心感
- ・自分の世界に没頭する

(家族)

- ・利点は、GPS の活用により、子どもの位置などがわかるので安心感につながる。
- ・また、離れていても連絡が取れることも利点。
- ・悪い点は、喧嘩のタネになるのではないかというところ。

(改善案)

- ・家族内のルールを作ること。
- ・「ネットを切るぞ」などの脅しはできるだけ使いたくないため、タイムロックの設定などを行うことによって、家族間の関係を円満に保つ。

(学校)

- ・利点は、物事の確認がしやすい。
- ・話題が増える。
- ・スクリーンの投影により負担が減る。
- ・連絡を取りやすくなった。
- ・悪い点としては、喧嘩が増えるのではという問題がある。
- ・SNS を利用していないなど繋がりのない人が孤立する恐れがある。

- ・ネット前提になり依存してしまう。

(改善案)

- ・不適切な内容などに対するフィルタリングを活用する。
- ・つながりのない人への配慮をしっかりと行う。

(地域)

- ・利点としては、家族間の交流が増え、スマートフォンがあると話題が増える。
- ・ネットのニュースなど情報の共有がしやすくなった。
- ・物を手に入れやすくなった。
- ・悪い点としては、物的・情報格差が広がる。
- ・能動的に行動しないと情報を手に入れられない。
- ・オレオレ詐欺など犯罪へのリスクが高まる。

(改善案)

- ・情報の提供手段を併用すること。

(僕らの提案)

- ・フィルタリング **For Teens**

→男女別・趣味などカテゴリーに分け、自分たちでフィルタリングの基準を作成する。

- ・ネットルールレクリエーション活動

→中高生にネットルールをわかりやすく解説する。

第4班 テーマ 「家族・学校・地域から考える豊かな生活」

家族・学校・地域の3つの視点から、ICTを活用したこれから出てくる技術を考え、問題点やデメリット、改善点を考えた上で、豊かな生活とはどのような生活かを考えた。

(豊かな点)

- ・電話やLINEなどを用いた、連絡の容易化
- ・eラーニングやノートのデジタルガードといった電子教材の導入
- ・情報の活用

(デメリット)

- ・メールやLINEを使うことによって、顔を合わせるなど直接コミュニケーションを取ることが減る。
- ・eラーニングなどの電子教材を使うことによって、習慣や文化が薄れていく。
- ・ノートとして使う電子機器の不具合などによって、中身のデータが消失する。

(解決策)

- ・高校生によるイベント、お祭りを開催して地域の交流を深める。

- ・例えば、北海道は雪が多いので、雪かきなどのボランティアを作るなど。
- ・デジタルの時代になると習慣が薄れてしまうので、かるたや駒など伝統の遊びなどを伝える。
- ・料理のレシピなどをデータベース化して残す。

(まとめ)

- ・コミュニケーションの拡大を行うこと
- ・デジタル化による効率向上を図ること
- ・高齢化社会に対応したネットワークシステムを配備すること
- ・国民的アイデンティティを保持すること

第5班 テーマ 「高校生が考える心豊かな生活～ICT×(家族・学校・地域)～」
人間らしくということを根本的に考え、家族・学校・地域で考えた。

(家族)

- ・プラス面は、写真の共有やLINEで要件を簡単に済ませることができる。
- ・マイナス面は、家でのコミュニケーションの質の低下により、家族の会話が減った。

(改善策)

- ・直接顔を合わせて話す時間をしっかり作る。

(学校)

- ・プラス面は、タブレットの普及により、授業の電子化や出欠確認を行うことができる。
- ・マイナス面は、活字に触れる機会が減り、漢字や正しい日本語が使えなくなったり書けなくなった。

(改善策)

- ・読書時間を増やす。
- ・活字に触れる機会を増やす。

(地域)

- ・プラス面は、地域の情報を簡単にネットで見れるようになった。
- ・マイナス面は、一方的な情報が多く、自分がわからなくなってしまう。

(改善策)

- ・情報への返信をできるようにし、双方向での連絡ができるようにする。

(高校生が考える豊かな生活についてまとめ)

- ・地域については、地域・自治体での情報共有の場を増やす。

・学校については、すべてタブレット化するのではなく、図表やデータ、動画など紙の資料としてはできないことや難しいことを専用のタブレットを作り、一人一人に配布する。

・家族については、スマホの使用時間を減らし、家族との会話の時間や顔を合わせる時間を増やす。

(人間らしくとは)

・双方向のコミュニケーションや元々人ができていたことを今後もしっかりできるようにすること。

・すべて機械に頼るのではなく、ICTの進化に伴い、人間が人間らしく生活することを心に置くこと。

第6班 テーマ 「便利と危険は表裏一体 ICT × 家族・学校・地域」

(ICTを利用して豊かになる物 - 家族 -)

・最近、お年寄りが家族と離れて生活し、孤独死が増えているが、家族とのコミュニケーション不足が原因。

・コミュニケーションをとらなくても、家電のスイッチのON/OFFで安否がわかれば便利。

・しかし、生活が監視されていると思われてしまうかもしれないというのが問題点である。

・家族間でLINEなどのコミュニケーションアプリを使うことで、連絡が取りやすくなる。

・しかし、近くにいてもLINEで話をする、直接の会話が減り、家族関係が豊かではなくなる。

・近くにいるけれど遠くなってしまいうということが起き、大きな問題点である。

(ICTを利用して豊かになる物 - 学校 -)

・LINE交換など友達が作りやすい。

・反面、SNS特有のいじめや陰口などもある。

・タブレットで授業をすることで、忘れ物などが減り、先生に怒られることもなくなる。

・反面、依存しすぎて授業中に他のことをしたり、タブレットを持っている人と持っていない人との間で格差が生まれることもある。

(ICTを利用して豊かになる物 - 地域 -)

・GPSを活用することで、行き先の混雑情報を調べたり、現在地の天気予報がわかるようになった。

・反面、GPSを利用したストーカーなどの犯罪が楽にできるようになってしまった。

・小さいお子さんがいるお母さんがネットショッピングを利用することで買い物が楽になった。

・反面、実物の商品を見ることができないため、詐欺などにあう。

(まとめ)

- ・自己管理をきっちり行う。
- ・安全なサイトなのかどうなのか疑う気持ちを持つ。
- ・便利さの中には危険性がある。
- ・危険性を知った上で使う。

第7班 テーマ 「クラブ活動で地域の活性化」

- ・今あるもので困っていること、便利になったらどうなるのかについて話し合った。
- ・情報をすぐに調べられることは利点である反面、情報が多すぎてどれが正しい情報で、間違った情報なのかすぐにわからないことが問題。
- ・解決策としては、一人で調べるには限界があるので、専門家や幅広い人たちの知識を使うことで解決できる。
- ・しかし、情報の中には、矛盾したものや実際に誰が言ったのかわからない情報など様々な問題がある。
- ・心豊かな生活にするためには、老若男女問わずみんなのできるクラブやボランティアの活動を行う。
- ・豊かな生活とは、様々なクラブ活動をつくって楽しく関われることで地域を活性化させること。

講評：北海道大学 重田 勝介 様

今年は、心豊かな生活がテーマで難しいテーマと聞いていたが、活発な議論がされていて発表もすばらしかったと思うとの講評をいただきました。

また、ICT は友達や家族とすぐに連絡を取れたり、仕事を早く済ませることができたりなどツールとして使える便利なものではあるが、「豊かさ」と関係があるのかわからない部分があり、本日の皆さんの発表を楽しみにしていたとのお話しをいただきました。

ICT を利用すると文化や習慣が薄れていくとの発表を聞き、文化は精神的な活動のことで生活が豊かになるということ、ICT はある種文明で色々な技術を利用して生活が豊かになるということであり、文明だけでなくどのように使っていくかという文化も育っていかないと生活が豊かにならないとのお話しをいただきました。

今日の議論では、生活自体は文明で豊かになっていくが、一方でそれをどのように使いこなしていくかは、習慣やルールかもしれないが、自分たちで考えて両面を押さえて使いこなしていくことを考えることが大事とのお話しをいただきました。

今日すばらしかったのは、それぞれの世代の立場で「豊かさ」を考え、実現するためにはどうすれば良いのか ICT の続きを考え発表につながったこととお話しや、今後、色々な技術ができて、それを使う人がツールに基づいた文化やルールを作っていくことが重要とのお話しをいただきました。

最後に、「豊かさ」とは何なのかと振り返ることは良いことであり、同世代だけでなく世代を超えて話し合うことは大事なので、今後も今日のような場を思い出してほしいと結びました。

参加校	北海道石狩南高等学校、ヒューマンキャンパス高等学校、北海道旭川工業高等学校、北海道北見柏陽高等学校、北海道札幌旭丘高等学校、北海道岩見沢農業高等学校、北海道大麻高等学校、北海道札幌東豊高等学校
日時	2017年10月22日(日) 11:00-17:00
場所	内田洋行・札幌ユビキタス協創広場 U-cala 北海道札幌市中央区北1条東4丁目 1-1 サッポロファクトリー1条館1階
参加人数	熟議参加生徒 45人 見学者 40人(教員・教育関係者・その他) 合計 85人
熟議グループ	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。(敬称略) 【第1班】7人 北海道北見柏陽高等学校 2年 女子 北海道札幌東豊高等学校 3年 女子 北海道札幌東豊高等学校 2年 男子 北海道旭川工業高等学校 2年 男子 北海道岩見沢農業高等学校 3年 男子 北海道石狩南高等学校 1年 男子 北海道石狩南高等学校 3年 男子 〔ファシリテーター〕 一般社団法人 LOCAL 篠原 徹 【第2班】7人 北海道石狩南高等学校 1年 男子 北海道石狩南高等学校 2年 男子 北海道北見柏陽高等学校 2年 女子 北海道札幌東豊高等学校 2年 女子 北海道札幌東豊高等学校 2年 女子 北海道岩見沢農業高等学校 2年 男子 北海道旭川工業高等学校 2年 男子 〔ファシリテーター〕 一般社団法人 LOCAL 佐藤 佳祐 【第3班】7人 北海道大麻高等学校 1年 女子 北海道石狩南高等学校 3年 女子 北海道石狩南高等学校 1年 男子 北海道旭川工業高等学校 2年 男子 北海道札幌東豊高等学校 1年 男子 北海道札幌東豊高等学校 2年 男子 北海道札幌旭丘高等学校 2年 男子 〔ファシリテーター〕

公益社団法人 全国消費生活相談員協会 細谷 佳世美

【第4班】6人

北海道旭川工業高等学校 2年 男子

北海道石狩南高等学校 1年 男子

北海道石狩南高等学校 1年 男子

北海道大麻高等学校 1年 女子

北海道札幌旭丘高等学校 2年 男子

北海道札幌東豊高等学校 2年 男子

[ファシリテーター]

公益社団法人 全国消費生活相談員協会 伊藤 香

【第5班】6人

北海道札幌旭丘高等学校 1年 男子

ヒューマンキャンパス高等学校 1年 男子

北海道大麻高等学校 1年 男子

北海道石狩南高等学校 1年 女子

北海道石狩南高等学校 1年 男子

北海道札幌東豊高等学校 2年 男子

[ファシリテーター]

北海道情報大学 高井 那美

【第6班】6人

北海道石狩南高等学校 1年 男子

北海道札幌旭丘高等学校 1年 女子

北海道大麻高等学校 1年 女子

北海道札幌東豊高等学校 3年 女子

北海道札幌東豊高等学校 2年 男子

ヒューマンキャンパス高等学校 1年 男子

[ファシリテーター]

一般社団法人 LOCAL 八巻 正行

【第7班】6人

北海道札幌東豊高等学校 1年 男子

北海道札幌東豊高等学校 3年 女子

北海道石狩南高等学校 2年 男子

北海道大麻高等学校 1年 女子

北海道札幌旭丘高等学校 1年 男子

ヒューマンキャンパス高等学校 1年 男子

[ファシリテーター]

一般社団法人 LOCAL 蒲田 拓也

主担当

安心ネットづくり促進協議会	事務局
総務省 北海道総合通信局 株式会社内田洋行、NPO法人NEXTDAY 株式会社ラック、一般社団法人LOCAL	会場、什器備品手配 飲食手配、庶務
各団体、事業者等	講演、ノベルティ、資料提供 他

3. 高校生 ICT Conference 2017 in 帯広 開催概要

<p>概要</p>	<p>高校生、教員、企業関係者など29名の参加者を得て、「高校生が考える心豊かな生活 ～ICT×(家族・学校・地域)～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>開会挨拶 十勝毎日新聞社 取締役デジタルメディア局長 伊東 肇 様 高校生 ICT Conference の意義や目的とあわせて、本日の流れを紹介しました。</p> <p>来賓挨拶 総務省北海道総合通信局 情報通信部電気通信事業課長 宮腰 宗一 様 IOT/ICTに関する総務省の取組を紹介いただきました。</p> <p>第一部 事業者講演 「ICT利活用と心豊かな生活 ～未来を想像する3つのヒント～」 エースチャイルド株式会社 代表取締役 西谷 雅史 様 ICT利活用、心豊かな生活、未来のICTというキーワードを元に、5年後、10年後の未来を想像するにあたっての最新技術の紹介や、テーマを的確に捉え、じっくり突き詰めて議論し、エッセンスをのがさないという熟議にあたっての心構えなどをお話いただきました。</p> <p>参加校 学校紹介 及び グループ分け 参加学校ごとに簡単な自己紹介を行いました。また、ファシリテーターの方々も自己紹介を行いました。自己紹介で少し緊張感も和らぎました。その後、3つにグループ分けしました。</p> <p>第二部：熟議 グループに分かれ、十勝毎日新聞社、ワンエックス、帯広コア専門学校の方々もファシリテーターとなり、熟議を開始しました。 高校生たちは、心豊かな生活のためにICTをどのように活用するのか、自分たちが考えていることをそれぞれ発表し、活発に意見を出し合いました。それぞれが考える心の豊かさや、ICTの活用方法等について付箋紙に記載していき、分類分</p>
-----------	--

けしながら付箋紙を模造紙に貼り付けていく中で、さらに意見を出し合いながら各グループでまとめて行きました。

第三部：グループ発表（各グループ 3分程度）

各グループでは、スクリーンに映したプレゼンテーション資料と模造紙を活用しながら発表を行いました。

その後、引率の先生と各校の生徒代表が集まり、11月3日の東京サミットに行く代表校を選ぶ投票を行いました。その結果、北海道釧路明輝高等学校が代表校に選ばれました。

（グループ発表概要）

【A班】グループ名「梅干し」 テーマ「笑って暮らせる社会を目指して…」

- ・自分の心に余裕があるから共感することができて、笑顔になれる。
- ・個人の豊かさとは、他の人のことで豊かになれる、幸せを心から感じられること。
- ・それを地域に生かしていくために共有するということで、イベント、ボランティア、挨拶をすることなどで地域創生を行っていく。
- ・総合すると人との関わりが大切だと言うことに気づいた。
- ・人との関わり、心の豊かさとは他人とコミュニケーションをとること、笑顔で暮らせること。
- ・そのために ICT を活用し情報の共有を図る。特に危険な情報への対応が必要。
- ・将来的に道路を歩いているときに360度が見渡せるようになれば、車にひかれる可能性も低くなる。
- ・警察等と情報共有することによって、事件・事故を防ぐことができる。
- ・身近なケースでは、学校でヘアアイロン使用禁止だが、そのときにカメラを設置して先生が来るのを早く察知できるとか。
- ・危険に対応することで安心・安全が確保されれば、心の豊かさにつながっていくと思うので、安心と安全が大事。

【B班】グループ名「いぬ」 テーマ「家族と ICT」

- ・心の豊かさのために大切なのは家族での ICT 活用。
- ・家族とつながり何かあれば相談できる。家族みんなで過ごす。そのために ICT を活用する。
- ・何かあったときに家族と簡単に連絡できれば、災害時や他のことにも使えるので、これが大切。
- ・そのためにスマホを利用する。
- ・例えば離れて暮らす祖父母たちと顔を見ながら会話することもできる。きれいな写真のやり取りもできる。
- ・だが、スマホを使えない人もいる。
- ・スマホを使えない人のために、スマホの使い方を教える教室を開く。家族内で教える。
- ・将来的には、思っただけでスマホの画面が変わったり、簡単に操作できるように

なればいい。

- ・結論は、ICT を利用することで、家族とつながるきっかけとなる。

【C班】グループ名「I Can Try」 テーマ「さまざまな目線で日本を活性化！」

- ・ICT はスマホやドローン等あるが、ICT ができることといえば情報共有。
- ・Twitter や Instagram などの SNS を利用したり、インターネットで調べたりなど沢山のことができる。
- ・私たちが考えた案は、さまざまな目線で日本を活性化！

① 地元目線

- ・地元の釧路市は、一般の方からは何もないイメージだが、釧路市民からすると世界三大夕日の一つとされるほど夕日がきれい、湿地の生態系を壊さないようにと制定されたラムサール条約で登録されている釧路湿原、という釧路の良いところがある。
- ・その釧路市の良いところを SNS を通して発信し、釧路を活性化したい。

② 子ども目線

- ・5歳の子どもので考えてみると、一般目線で見ると危険なところへすぐに行きたがる、やきもち焼きなど挙げられるが、子ども目線で見ると、好奇心旺盛で小さな穴があれば入りたくなる、親があまり関わってくれなくて、悲しい、寂しいという気持ちがある。
- ・その子ども目線をドローンなどを使って撮影し、SNS などで広めると子ども目線に対する理解が深まると思う。

③ 高齢者目線

- ・私の祖母は機械音痴で携帯の操作とか聞いてくる。お節介で電話をしにくるのに、かけ直したら電話に出ない。
- ・私の祖母を活性化するには、Twitter や Instagram などの SNS の利用を説明して、祖母に限らず高齢者が SNS を利用することで、孫のことを電話しなくても分かるように共有できたら良いと思う。
- ・結論として、さまざまな目線から見て物事を理解し共有することで、日本を活性化し、総合的に心を豊かにすることができるのではないかと考えた。

その後、参加生徒により、11月3日に開催される東京サミットに行く代表校の選定投票を行い、北海道釧路明輝高等学校が代表校に選出され、発表されました。

講評：帯広コア専門学校 副校長 情報系学科主任 阿部 肇 様

「限られた時間の中で他校の生徒と議論し、まとめ、発表するのは大変なことだったと思うが、真剣に議論をする姿を見て大変うれしく思いました。私が就職した当時はインターネットも無い時代。皆さんは生まれたときからパソコンもスマホも身近にあり、情報系に関しては非常にすばらしい環境にある。その中で、本日のテーマに沿って色々な考えが出され、非常に頼もしく思いました。今回のような経験はなかなかできることではないので、この経験を生かし、社会に出て I Can Try で行ってもらいたい。」と話されました。

参加校	北海道帯広南商業高等学校、北海道釧路明輝高等学校、北海道士幌高等学校
日時	2017年10月15日(日) 11:00-17:00
場所	とちちプラザ1Fギャラリー 北海道帯広市西4条南13丁目1
参加人数	熟議参加生徒13名 見学者16名(教員、教育関係者、その他) 合計29名
熟議グループ	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。(敬称略) 【A班】 グループ名「梅干し」4名 北海道士幌高等学校 2年 女子 北海道帯広南商業高等学校 3年 女子 北海道帯広南商業高等学校 1年 女子 北海道釧路明輝高等学校 1年 女子 [ファシリテーター] ワンエックス 辻田 茂生 【B班】 グループ名「いぬ」5名 北海道士幌高等学校 2年 男子 北海道釧路明輝高等学校 1年 女子 北海道帯広南商業高等学校 1年 女子 北海道帯広南商業高等学校 1年 女子 北海道帯広南商業高等学校 3年 女子 [ファシリテーター] 帯広コア専門学校 小野 眞靖 【C班】 グループ名「I Can Try」4名 北海道帯広南商業高等学校 3年 男子 北海道帯広南商業高等学校 3年 女子 北海道士幌高等学校 2年 男子 北海道釧路明輝高等学校 1年 女子 [ファシリテーター] 十勝毎日新聞社 伊藤 肇

主担当

安心ネットづくり促進協議会	事務局
十勝毎日新聞社 有限会社ワン・エックス、帯広コア専門学校	司会、ファシリテーター、会場調整、 什器備品手配、飲食手配、庶務他
各団体、事業者等	講演、ノベルティ、資料提供 他

4. 高校生 ICT Conference 2017 in 宮城 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など71名の参加者を得て、「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>開会の挨拶 総務省 東北総合通信局 情報通信部 電気通信事業課 課長 齋藤 宏美 様 総務省東北総合通信局の概要説明と高校生 ICT Conference の関係などについて、お話をいただきました。</p> <p>第一部：事業者による講演 一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構 久保谷 政義 様 インターネットの光と影について、熊本地震時の良い事例や、出来心でやった投稿での代償など実例を使って説明して頂き、ネットトラブル回避の正解は無く、日頃から意識したり議論したりしていく事が重要であるという事を説明いただきました。</p> <p>株式会社 NTT ドコモ CSR 部 CSR 担当部長 山口 幸夫 様 人は知らず知らずのうちに「固定観念」や「習慣」に縛られていることを実験をとおしてお話しして頂き、今回の ICT カンファレンスではネットやスマホに馴染んでいる世代だからこそその発想で今までの常識に囚われない“柔軟な発想や考え方”、“ものの見方”で、たくさんの意見を出して欲しいとのお話をいただきました。</p> <p>参加校 学校紹介 および グループ分け 参加学校ごとに、簡単に学校紹介と自己紹介をしていただきました。（順不同） 宮城県登米総合産業高等学校 東北学院高等学校 仙台城南高等学校 宮城県多賀城高等学校</p> <p>自己紹介後、グループに分かれ、各グループ内で自己紹介などを実施しました。</p> <p>第二部：熟議「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～」 グループに分かれ参加校の引率先生がファシリテーターとなって、高校生熟議を開始しました。メモや付箋紙を活用しながら模造紙に貼り付けて意見を整理分類しまとめて行きました。 企業の方もサポーターとして入っていただき、専門的な質問が出ると、すばやく答えてくださいました。</p> <p>第三部：グループ発表 各グループともプレゼンテーションソフトを活用して3分程度の発表を行いました。</p>
----	--

	<p>た。その後、各校の引率の先生と生徒代表が集まり、11月3日に開催される東京サミットに行く代表校の選定投票を行い、仙台城南高等学校が代表校に選出され、発表されました。</p> <p>最後に、東北工業大学 学長室長 教授 上杉 直様より全体講評をいただきました。</p> <p>各グループの発表を振り返り、1つ1つポイント・キーワードをあげて丁寧にコメントをいただきました。</p>
参加校：	<p>宮城県登米総合産業高等学校 東北学院高等学校 仙台城南高等学校 宮城県多賀城高等学校 (順不同)</p>
日時：	2017年10月21日(土) 10:00-17:00
場所：	東北工業大学 一番町ロビー (宮城県仙台市 青葉区一番町1丁目3-1 TMビル)
参加人数：	<p>熟議参加生徒 21人 見学者・関係者 23人(教員・教育関係者・その他) 合計：44人</p>
熟議グループ：	<p>熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。(敬称略)</p> <p>【第1班】6人 宮城県登米総合産業高等学校 2年 女子 東北学院高等学校 2年 男子 仙台城南高等学校 1年 男子 仙台城南高等学校 3年 女子 仙台城南高等学校 3年 男子 仙台城南高等学校 3年 男子 [ファシリテーター] 仙台城南高等学校 千葉 俊哉 [書記] 仙台城南高等学校 熊谷 哲成</p> <p>【第2班】6人 宮城県登米総合産業高等学校 1年 男子 東北学院高等学校 2年 男子 仙台城南高等学校 1年 男子 仙台城南高等学校 3年 男子 仙台城南高等学校 3年 男子 仙台城南高等学校 3年 男子 [ファシリテーター] 仙台城南高等学校 鈴木 理恵 [書記] 仙台城南高等学校 中里 加奈子</p>

	<p>【第3班】4人</p> <p>宮城県多賀城高等学校 2年 男子 東北学院高等学校 1年 男子 仙台城南高等学校 3年 男子 仙台城南高等学校 3年 女子</p> <p>[ファシリテーター] 東北学院高等学校 名越 幸生</p> <p>[書記] 宮城県登米総合産業高等学校 千坂 大輔</p> <p>【第4班】4人</p> <p>宮城県多賀城高等学校 2年 男子 東北学院高等学校 1年 男子 仙台城南高等学校 2年 男子 仙台城南高等学校 3年 女子 仙台城南高等学校 3年 女子</p> <p>[ファシリテーター] 宮城県多賀城高等学校 佐藤 寿正</p> <p>[書記] 仙台城南高等学校 鈴木 聡</p>
--	---

主担当

地域事務局	仙台城南高等学校	会場設営、受付、ファシリテーター、書記、庶務 他
東北工業大学		会場、機材提供
大阪私学教育情報化研究会	米田	司会進行
各地協力団体、事業者、		挨拶、講演 他
安心ネットづくり促進協議会	高橋	事務局、庶務

5. 高校生 ICT Conference 2017 in 石川 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など45名の参加者を得て、「高校生が考える心豊かな生活 ～ICT×(家族・学校・地域)～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>司会進行・主旨説明 関西学院千里国際中等部 米田 謙三 様</p> <p>高校生 ICT Conference の意義や目的とあわせて、本日の流れについて紹介しました。また、11月の東京サミットに送り出す代表校選出の方法についても紹介しました。</p>
----	--

	<p>来賓挨拶 総務省北陸総合通信局 情報通信部 部長 門田 茂 様</p> <p>第一部：ICTに関する講演 「情報化社会の中の私たちの『学び』」 いしかわ青少年安心ネット環境推進連絡会 座長 浅野秀重 様 (金沢大学地域連携推進センター 教授)</p> <p>「ネットトラブルの事例をもとに予防と対策を考える」 石川県警察本部 生活安全部 生活環境課 サイバー犯罪対策係長 警部補 飛永繁樹 様</p> <p>アイスブレイク、自己紹介 4つのグループに分かれ、アイスブレイクの後、各グループ内で自己紹介などを実施しました。</p> <p>第二部：熟議「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×(家族・学校・地域)～」 グループに分かれ金沢工業大学の学生のみなさんがファシリテーターとなって、高校生熟議を開始しました。メモや付箋紙を活用しながら模造紙に貼り付けて意見を整理分類しまとめて行きました。</p> <p>第三部：グループ発表 各グループともプレゼンテーションソフトを活用して3分程度の発表を行いました。</p> <p>その後、参加生徒により、11月3日に開催される東京サミットに行く代表校の選定投票を行い、石川県立金沢伏見高等学校が代表校に選出され、発表されました。最後に、金沢大学 地域連携推進センター教授 浅野秀重様より、ご講評をいただきました。</p>
参加校	石川県立工業高等学校 石川県立金沢商業高等学校 石川県立門前高等学校 石川県立金沢二水高校 石川県立小松工業高等学校 石川県立金沢伏見高等学校
日時	2017年9月23日(土) 10:00-17:00
場所	石川県教育会館
参加人数	熟議参加生徒18名 見学者27名(教員、教育関係者、その他) 合計45名

主担当

安心ネットづくり促進協議会	事務局
北陸携帯電話販売店協会、金沢工業大学	司会、ファシリテーター、会場調整、 什器備品手配、飲食手配、庶務他
各団体、事業者等	講演、ノベルティ、資料提供 他

6. 高校生 ICT Conference 2017 in 長野 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など 106 名の参加者を得て、「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>《開会あいさつ》 長野県教育委員会 心の支援課長 小松 容 様 長野県は今回で 3 回目の開催となり、昨年度より多くの学校が参加しています。今年のテーマは『高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～』。他校の高校生同士で話し合えるこの機会に、皆さんのインターネットやスマートフォンへの接し方について改めて考える機会にしてほしい。 今日 ICT カンファレンスで話したことは是非学校内にとどまらず、県内へも情報発信してほしい。</p> <p>《来賓あいさつ》 総務省信越総合通信局 情報通信部電気通信事業課 課長 中島 淳 様 インターネットは、その利用により、便利で不可欠なサービスになってきている一方で、様々なトラブルも起こっている状況にあります。 本日は ICT カンファレンスという多くの学校を交えた熟議の場を生かして高校生が自らインターネットについて積極的に考え、話し合いを深めていただくことを期待しています。</p> <p>《第一部：参加校発表①》 最初に全参加校が事前課題について 2 分間で発表を行いました。 ・インターネットやスマートフォン利用や活用における利点（メリット）と問題点（リスク）について、身近なトラブルの事例など。 ・トラブルに対して具体的に学校で取り組んだ予防策や対策について。 ・高校生の考える「ICT の利活用を通じた豊かな生活」と、そのための取り組みについて。</p> <p>《第二部：アイスブレイク、自己紹介》 その後グループ移動・自己紹介・アイスブレイクなどを実施しました。</p>
----	--

《第三部：事業者講演》

株式会社サイバーエージェント 技術本部 CS室 室長 中村 広毅 様

AbemaTV や AWA など提供するサービスを使った豊かな生活の事例、Ameba の安心・安全な利用のヘルプを参考に「個人情報の取り扱い」「著作権侵害の注意」「危険な行為の助長の禁止」「誹謗中傷禁止」など注意点と対処方法についてご説明いただきました。

一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構 代表理事付・理事 松原卓 様

ネットの「光と影」と題して、ネットトラブルの事例、回避する方策について、お話しいただきました。ただ対策を覚えれば良いというのではなく、対応するための考え方や行動について、日頃から意識したり、議論したりしていくことが重要であること、どの様にしたらネットの「影」を「光」にできるんだろう？という点についても熟議してほしい。

各プレゼンの内容をしっかり参加生徒はメモをとりながら次の熟議に備えていました。各プレゼンの内容も 現在の問題点、今後の課題、これからの活用方法などいろいろなアイデアが盛り込まれていて大変有意義なものでした。

《第四部：Conference①》

長野県、教育委員会、総務省の方などがファシリテーターとなってグループ熟議はワールドカフェ方式で行われました。参加生徒はメモや付箋紙を活用しながら模造紙に貼り付けて意見を整理分類しまとめていました。模造紙に整理した内容をもとにグループごとに発表を行い関係者が簡単な質問を行いました。参加生徒はしっかりと受け答えをしていました。

《第五部：Conference②、発表》

学校ごとの席次に戻り、グループで話し合った事を共有した後、学校単位での発表準備（発表資料の作成と発表方法・発表者調整、練習）が行われました。全参加校が4分ずつ提言発表を行いました。

(各学校の発表骨子は以下の通り)

【長野県明科高等学校】

キャッチフレーズ： 「ICTと地域のつながり」

導入として寸劇から入る

(発表者も会場の参加者も笑顔になり一体化した)

陰・デメリット

スマホ依存・・・

歩きスマホの危険性(依存してついつい歩きスマホをする)

授業中も使用してしまう

スマホ利用マナー・・・

音楽を聴きながら歩いていると迷惑をかける

改善点

依存について・・・

学校内では、授業前スマホ回収の徹底する

高齢者や地域の方、使い方がわからない人に対して、自分たち高校生が

教える

問題点解決のために自分たちが出来ること、今後やりたいこと

高校生が地域で講演会をする

全校で意識を統一したい

地域へPRする。ツイッター、アカウントで知って貰いたい

〈Q質問〉

自分で意識的に行動を考える制限することは難しいが、小さい頃から使ってしまうことに対してはどうすれば良いか。

〈A〉

小学生にも高校生が講演する

【長野県長野東高等学校】

キャッチフレーズ : NOメディアデイを作る

心豊かな生活のために、犯罪に巻き込まれないためには、NOメディアデイの実施で解決が出来る。特にネットメディアに触れる日をなくす。

そうすることで

コミュニケーションがUPする(家族・友人)

勉強時間がUPする

睡眠時間がUPする

NOメディアデイを学校で・家庭で行ってみる事を提案します

〈Q質問〉

学校でNOメディアデイするとしたら、どのようにしますか

〈A〉

生徒会と話し合って実施する

〈Q〉

あなただったらどの位の割合でNOメディアデイがあっても良いですか

〈A〉月に2～3回なら出来ると思います。

【長野県長野西高等学校】

キャッチフレーズ : 私たちから全校へ

現状(デメリット)

依存

流出

勉強時間がなくなる

対処

利用時間を決めるアプリを入れる
文化祭でICTについての展示コーナーを作る
このような学習できる機会に参加する、参加したときは学校へ戻って伝える
生徒会が運営し、私たちの目線で、言葉で伝える

〈Q質問〉

「文化祭を使って」は、小さい子どもや高齢者にも伝えられてとても良いが、具体的にどんなふうに文化祭でやってみるのですか

〈A〉

自分たちの学校では保健展があるので、情報についてもまとめて発表すると
か。パットでその場で実際に見てみるなど

【松本工業高等学校】

「デメリットをICTで解決」というテーマで発表しました。「学力の低下」「視力の低下」「依存」「犯罪に巻き込まれる」「ネットトラブル」などのデメリットを「時間を管理する」アプリやIoTを活用して解決するという提案をしました。アプリの使い過ぎという難しい問題もアプリでこそ解決できるのではないかという点を強調していました。

【長野県茅野高等学校】

「～SMM（スマホ マイ マニュアル）作成～この中の3つを選ぼう」というテーマで発表しました。「大事なことは直接伝える」「人との会話を増やす」「安易なラインの交換をしない」など、一人ひとりが自分で必要な3つのことを入れて、「スマホ マイ マニュアル」を作ることを提案しました。高校生が誰でもすぐにできるという点を強調しました。

【長野県駒ヶ根工業高等学校】

「スマホキャラバンにご協力を！」というテーマで発表しました。「コマレンジャー同好会」では、地域のイベントでヒーローショーを行っていますが、その中で「ウイルス感染」等の実際の事例を紙芝居形式で紹介しています。小さな子どものみならず、保護者や地域の方からもわかりやすいと好評を得ています。今日のカンファレンスで学んだことを、地域や後輩、子どもや保護者に広げてほしいという提案をしました。

【長野県松本蟻ヶ崎高等学校】

2人だけの参加でしたが、かけ合いを交えた楽しい発表を展開しました。ICTを使うにあたり大切なものは、人として大切なこと「思いやり」です。そして、離れている家族ともつながることができたり、行事のお知らせや日常生活を発信することにより人と人のつながりを築くことで、明るい未来を創っていきましょう。ということを発信してくれました。

【長野県松本県ヶ丘高等学校】

ICTに関して「MCU」というスローガンが紹介されました。

①Make（ルールを作る）

生徒がルールを作り、生徒の目線からトラブルや長時間使用防止の啓発活動を行っていく。

②Call（呼びかける）

トラブルや法律について知り、広めることで正しく使っていく。

③Use（有効活用する）

情報量の多さやつながりの広さを生かして、有効に使っていく。

有効な利用法として単語アプリ、勉強法をSNSで情報交換するなどが例として上げられました。また、正しく知り、正しく判断するためには、大人や専門家、友人とのつながりが大切であることが指摘されました。

【長野県松本美須ヶ丘高等学校】

生徒会としては、月の出来事をまとめた新聞の発行、文化祭での情報コーナー、生徒総会で危険性の確認などを行う。ゲームやスマホに関してはゲームだけでなく勉強アプリを使う、親や友達と使用時間を決める、LINEよりも電話で話すことを大切にする。時間・人に関しては、スマホより家族や友達との会話を大切にするのが提言されました。また、有効な利活用として校内の出来事を地域にも発信すること、授業参観の後に親子で参加できる講演会を開きICTについて共に学ぶ機会をつくるという取り組みが紹介されました。

松本美須ヶ丘高校の「み・す・ず」にちなんだスローガンも発表されました。

「み」みんなが利用する、「す」スマホやインターネットを、「ず」ずっと楽しく利用しよう。

【長野県高遠高等学校】

1. スマートフォン利用のメリット

- 家族間、友人間で連絡を容易に取ることができる。
- 多くの情報を得ることができる。情報量が多い生活。

2. スマートフォン利用のデメリット

- 歩きスマホは危険。交通事故の原因にもなる。
- ICT（スマホ）によってすぐに情報が得られるので、自ら思考することが少なくなる。思考することなく、容易に答えを求めてしまう。
- 人間関係のトラブルの原因になる。使い方によっては友達との関係が悪化する。

3. 自分たちができること

- 利用者がメリット、デメリットを理解することが大切。
- 理解が進むような内容の授業があるとよい。
- 今日の熟議や意見交換で経験したことを、学校に戻って生徒会として伝えたい。

生徒会の活動として取り組み、広げていきたい。

【長野県松川高等学校】

1. 提言

「人のためを思って使えばみんな Happy になれる」

○「個人」のレベル

どう使うか自分で考える。一人一人が心にとめる

○「学校」のレベル

使用のマナー向上促進のための講演会を行う。

マナー向上を呼びかける。

○「地域」のレベル

家族で話し合う。ルールやマナーを決める。

地域においてみんなのできることをはっきりさせて、みんなで実行する。回覧板などで伝える。

○「全体」のレベル

共有する。そうすれば常識が保たれる。

2. 自分たちができること・取り組めること

○学校でスマホについて今の使い方や、モラル・マナーなどのアンケートを採る。

○生徒会活動によって学校全体で考える時間をつくる。

3. 社会への発信

○高校生がこのようなスマホとのつきあい方を「社会」や「国」に提言していけばいい。

【長野県飯山高等学校】

1. ネット・スマホの問題点と ICT を活用した改善策

○問題点 1 個人情報漏洩

→改善策

パスワードを定期的に変更するようにする。

顔で認証するアプリがあるといい。

○問題点 2 誹謗中傷・トラブル

→改善策

マナー・モラルの向上をはかる

書き込み内容を制限するしくみがあるといい。

○問題点 3 使用時間

→改善策 ネット等への書き込み時間を制限するしくみやアプリがあるといい

2. 飯山高校生徒会としてできること

- 全校全体で利用できるアカウントをつくる
 - ・全校参加の生徒会活動を目指す
 - ・みんなが身近に ICT を使いながら使い方を考える
 - ・このアカウントをつかって自分たちがネットの自由さと恐さをもぎ的に体験する
- 利用している人の経験・失敗を共有していくことで全校の関心を高めたい。

【長野県北部高等学校】

「みんなで目指そうリア充！」

- 再度、ICTの光と影について考え合い、まとめた。

【光】

- ・誰とでもつながれる。
- ・わからないことはすぐに調べられる。
- ・どこでも音楽が聞ける。
- ・いつでもどこでも買い物ができる。
- ・最新の情報が得られる。

【影】

- ・信用できない。
- ・知らない人とも会えてしまう。
- ・目が悪くなる。
- ・友だちとの会話が減る。
- ・課金
- ・悪口

- ICTの光も影も度利他も「スマホ依存」に結びついていく。問題は友だちが減っていくこと。

- 音楽・ゲーム、ネット友、ツイッターなど、スマホに頼った暇つぶし、この幸福感の見直しが大切。

- スマホ依存を治して、「リア充」になろう。

【会場からの質問】

- ・保健委員会役員として参加されたようだが、今後、保健委員としては具体的にどんな取組ができそうか？

【応答】

- ・できるだけ友だちを作って、コミュニケーションをとって、スマホを使わないようにすること。

【長野県豊科高等学校】

- 再度、ICTのメリットとデメリットについて熟議を重ねた。

【メリット】

- ・生徒会のグループラインで人の招集が簡単になった。
- ・お店に行かなくても商品が買える。
- ・アプリを使って勉強ができる。

【デメリット】

- ・SNSに投稿された動画の人物が特定されてしまう。
- ・LINEでの会話で誤解されてしまった。

【よりよい活用は…？】

- ・災害時の幅広い情報提供
- ・仕事への活用

【改善点は…？】

- ・SNSアカウントの非公開
- ・個人情報の保護
- ・情報の取捨選択
- ・発信情報の再確認
- ・目を離して使う
- ・大切なことは直接会って話す。
- ・フィルタリング

【会場からの質問】

・実際にICTを活用していて、「もっとこうなるといいなあ」「もっとこんな使い方ができるといいなあ」と思うことはどんなことか？また、改善点を踏まえて、まずはどんなことから取り組みたいか？

【応答】

・スマホ依存の解消につながるようなアプリの開発。自分でも、依存症にならないようにしていきたい。

【長野県長野商業高等学校】

○自校の特色を生かして、ICTの活用のあり方について考えた。

○「長商デパートにたくさんのお客さんを呼びたい。」

↓

○「しかし…、広告・宣伝には費用がかかる。

また、お客さんが大勢来ても駐車場が混雑してしまう。」

↓

○「そうだ、SNSを使おう！」

↓

○「でも…、

・炎上したら…

- ・個人情報が流出して決まったら…
- ・従来の常識が壊れていく…
- ・乱視になる
- ・誤情報の危険
- ・アカウントの乗っ取り
- …危険がたくさん！」

↓

- 「でも、それ以上に…
- ・多くのじょうほうが得られる。

- ・情報の共有がしやすい。
- ・お客様の本音分かる。
- ・経費削減になる。
- ・リアルタイムで、ロコミ効果がある。

↓

- 「だから、正しく使えば…
- ・満足度向上！
- ・売上向上！

↓

- 「お客さんも、社員も心豊かに！！」

【会場からの質問】

- ・SNS等の活用は効果的だが、その危険性についてはどのように防げばよいと考えるか？

【応答】

- ・情報提供にあたっては、第三者の目を一度通すなど、確かな情報発信を心がける

《講評》

茨城県メディア教育指導員連絡会 会長 堤 千賀子 様

昨年度はカンファレンスで学んだことを下の世代に伝えていきたい、という発表が多くあった。今年はさらに仲間に伝えたい、地域に広げたいという意見も聞かれとても感心した。

本日はICTの利活用についてそのメリットやデメリットについて多くの話し合いが行われたとおもう。発表の中では「心豊かな生活」のためのアイデアや提案が少なかったのが少し残念だったが、更に時間をかけて話し合い、発想を膨らませることで色々なアイデアが出てくると思う。

学校に戻ってからの更なる話し合いやその成果を次世代に、地域に発信して欲しい。

	<p>《閉会式、サミット代表発表》</p> <p>サミット代表 長野県高遠高等学校 生徒</p> <p>長野県代表として自分が学んだこと、授業で学んだこと等を全国に伝えていきたい。</p> <p>閉会のあいさつ 長野県教育委員会 心の支援課長 小松 容 様</p> <p>高校生のみなさん自身でできることからまずははじめてみてほしい。みなさん自身が学内外のリーダーとなって更なる話し合いや情報発信をしていただけることを期待しています。本日は長時間の熟議と発表、お疲れ様でした。</p>
参加校：	<p>長野県明科高等学校</p> <p>長野県長野東高等学校</p> <p>長野県長野西高等学校</p> <p>長野県松本工業高等学校</p> <p>長野県茅野高等学校</p> <p>長野県駒ヶ根工業高等学校</p> <p>長野県松本蟻ヶ崎高等学校</p> <p>長野県松本県ヶ丘高等学校</p> <p>長野県松本美須ヶ丘高等学校</p> <p>長野県高遠高等学校</p> <p>長野県松川高等学校</p> <p>長野県飯山高等学校</p> <p>長野県北部高等学校</p> <p>長野県豊科高等学校</p> <p>長野県長野商業高等学校 (順不同)</p>
日 時：	2017年9月30日(土) 10:00-17:00
場 所：	安曇野市明科公民館(長野県安曇野市明科中川手6824番地1)
参加人数：	<p>熟議参加生徒 61人</p> <p>見学者・関係者 45人(教員・教育関係者・その他)</p> <p>合計：106人</p>
熟議グループ：	<p>熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。(敬称略)</p> <p>【グループA】7名</p> <p>松川等学校2年女子、茅野高等学校3年女子、明科高等学校3年男子、長野西高等学校2年女子、高遠高等学校3年女子、長野東高等学校2年男子、松本県ヶ丘高等学校2年男子</p> <p>[ファシリテーター]</p> <p>長野県教育委員会心の支援課 大池 昌弘</p> <p>【グループB】7名</p> <p>豊科高等学校3年男子、明科高等学校3年女子、飯山高等学校2年男子、高遠高等</p>

学校 3 年女子、北部高等学校 3 年女子、長野東高等学校 2 年男子、松本蟻ヶ崎高等学校 2 年女子

〔ファシリテーター〕

長野県教育委員会心の支援課 尾臺 博之

【グループC】 7名

松川高等学校 2 年男子、明科高等学校 3 年男子、長野西高等学校 2 年男子、松本工業高等学校 1 年女子、長野商業高等学校 3 年女子、松本蟻ヶ崎高等学校 2 年女子、松本県ヶ丘高等学校 1 年女子

〔ファシリテーター〕

長野県県民文化部次世代サポート課 市川 格

【グループD】 7名

松川高等学校 2 年女子、茅野高等学校 3 年女子、明科高等学校 3 年男子、長野西高等学校 2 年女子、松本美須々ヶ丘高等学校 2 年女子、高遠高等学校 3 年男子、長野東高等学校 2 年男子

〔ファシリテーター〕

上田市教育委員会 矢澤 智都枝

【グループE】 7名

松川高等学校 2 年男子、明科高等学校 3 年女子、長野西高等学校 2 年女子、高遠高等学校 3 年男子、長野商業高等学校 3 年女子、松本工業高等学校 1 年女子、長野東高等学校 2 年男子

〔ファシリテーター〕

長野県総合教育センター 藤澤 雅道

【グループF】 7名

松川高等学校 2 年女子、明科高等学校 3 年女子、長野西高等学校 2 年女子、高遠高等学校 3 年男子、長野商業高等学校 3 年女子、駒ヶ根工業高等学校 3 年男子、長野東高等学校 2 年男子

〔ファシリテーター〕

長野県野沢北高等学校 小林 嘉孝

【グループG】 7名

豊科高等学校 3 年女子、松本美須々ヶ丘高等学校 2 年男子、松本工業高等学校 2 年女子、長野商業高等学校 3 年女子、駒ヶ根工業高等学校 2 年男子、飯山高等学校 2 年女子、明科高等学校 3 年女子

〔ファシリテーター〕

長野県教育委員会心の支援課 中村 充秀

【グループH】 5名

<p>豊科高等学校 3 年女子、松川高等学校 2 年女子、明科高等学校 3 年男子、高遠高等学校 3 年男子、長野東高等学校 2 年男子</p> <p>[ファシリテーター]</p> <p>長野県県民文化部次世代サポート課 丸山 勝広</p> <p>【グループ I】 5 名</p> <p>松川高等学校 2 年女子、茅野高等学校 3 年女子、北部高等学校 3 年男子、長野東高等学校 2 年男子、松本県ヶ丘高等学校 1 年女子</p> <p>[ファシリテーター]</p> <p>長野県県民文化部くらし安全・消費生活課 新井 美雪</p> <p>【グループ J】 5 名</p> <p>松川高等学校 2 年男子、飯山高等学校 2 年男子、松本工業高等学校 2 年女子、長野商業高等学校 3 年女子、松本県ヶ丘高等学校 2 年男子</p> <p>[ファシリテーター]</p> <p>総務省信越総合通信局 堀 浩人</p>

主担当

安心ネットづくり促進協議会	事務局、庶務
ソフトバンク株式会社	運営アドバイザー
(一社) インターネットコンテンツ審査監視機構	企業講演
株式会社サイバーエージェント	企業講演
各地力団体、自治体等	ファシリテーター、受付 他庶務

7. 高校生 ICT Conference 2017 in 新潟 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など 70 名の参加者を得て、「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×(家族・学校・地域)～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>【リアル熟議】</p> <p>司会進行・主旨説明 草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会 常務理事 吉岡 良平 様</p> <p>高校生 ICT Conference の概要及び本日の大まかな流れを説明していただきました。</p> <p>開会の挨拶 (1) 総務省 信越総合通信局 電気通信事業課 課長 中島 淳 様</p> <p>「ICTカンファレンスには、初対面の人たちと話し合い、聞く・話す・考える、ことを学ぶという教育的側面と、インターネットについて考えることで、将来のよ</p>
----	---

りよいインターネット環境の構築の一助とする、という二つの側面があります。」
「ICTをどのように利活用すれば心豊かな生活を実現できるか、高校生の皆さんから、大人には考えつかない斬新なアイデアが出ることを期待します。」と話して頂きました。

(2) 文部科学省 生涯学習政策局 青少年教育課 課長補佐 塚田 昌毅 様

「インターネットの技術やサービスは日々発展しており、日常生活や社会の発展に欠かせないものとなっていますが、利便性と引き替えに、名誉毀損やプライバシー侵害、ネットいじめ等、犯罪の被害者や加害者となるようなことがあってはなりません。」
「心豊かな生活を実現するために、ICTの利活用における光と影について大いに熟議を重ね、本日集まったたくさんの仲間たちと共に、楽しい、実りある、そして、記憶に残るような時間になることを期待します。」と話して頂きました。

第一部：事業者による講演

デジタルアーツ株式会社 経営企画部 経営企画課 政策担当課長

チーフエバンジェリスト 工藤 陽介 様

「企業や大人への要求ではなく、高校生を主語にして議論して欲しい」「高校生の強みを活かしてほしい」「漠然と考えるのではなく、学校・地域・家庭に分解すると考えやすい」と話し、本カンファレンスで議論する上での考え方などについてお話し頂きました。

アイスブレイク、自己紹介、昼食休憩

6つのグループに分かれ、各グループ内で自己紹介などを実施しました。

グループごとに昼食をとった後、アイスブレイクを兼ねて、NCC 新潟コンピュータ専門学校が制作したVRゲームを体験したり、ロボコンに出場したロボットの説明を受けたりしました。

第二部：熟議「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～」

グループに分かれ、敬和学園大学、NCC 新潟コンピュータ専門学校の学生が生がファシリテーターとなって、高校生熟議を開始しました。メモや付箋紙を活用しながら模造紙に貼り付けて意見を整理分類しまとめて行きました。

第三部：グループ発表

各グループともプレゼンテーションソフトを活用して3分程度の発表を行いました。（詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください）

その後、参加生徒により、11月3日に開催される東京サミットに行く代表校の選定投票を行い、新潟第一高等学校が代表校に選出され、発表されました。

全体講評 敬和学園大学教授 一戸 信哉 様

「各班とも議論が盛り上がり、短時間で発表しなければならない中でよいアイデアを出し、具体案に近づくところまで来ていた。」

	「いくつかキーワードがある中で、新潟県における地域の課題といった地域の話をしていたグループが多く、新潟県民の地域への愛を感じた。」などと講評を頂きました。
参加校：	新潟第一高等学校 新潟県立新潟南高等学校 新潟県立新潟工業高等学校 新潟県立新津高等学校 新潟県立新津工業高等学校 新潟県立巻高等学校 敬和学園高等学校 (順不同)
日 時：	2017年8月17日(木) 11:00-17:40
場 所：	NCC 新潟コンピュータ専門学校(新潟市中央区米山3丁目1-53)
参加人数：	熟議参加生徒 30人 見学者・関係者 20人(教員・教育関係者・その他) 合計：50人
熟議グループ：	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。(敬称略) 【1班】 5名 新潟第一高等学校1年男子、新潟第一高等学校1年女子、新潟南高等学校1年男子、 新潟工業高等学校2年男子、新津工業高等学校3年男子 〔ファシリテーター〕 敬和学園大学 鳥海 楓 〔書記〕 敬和学園大学 新垣 裕太 新潟コンピュータ専門学校 田巻 仁衣也 【2班】 5名 新潟南高等学校1年男子、新潟第一高等学校1年男子、新潟第一高等学校1年女子、 新潟工業高等学校2年男子、巻高等学校1年男子 〔ファシリテーター〕 敬和学園大学 齋藤 みなみ 敬和学園大学 山川 沙羅 〔書記〕 新潟コンピュータ専門学校 西澤 功雄 【3班】 5名 新潟南高等学校2年男子、新潟工業高等学校2年男子、新潟南高等学校2年女子、 新潟第一高等学校1年男子、巻高等学校1年男子 〔ファシリテーター〕 敬和学園大学 阿部 咲 〔書記〕

	<p>新潟コンピュータ専門学校 南沢 充駒</p> <p>【4班】 5名 敬和学園高等学校2年女子、新潟南高等学校1年男子、新潟南高等学校1年男子、新潟第一高等学校2年男子、新津高等学校1年女子 〔ファシリテーター〕 敬和学園大学 若山 真生 〔書記〕 新潟コンピュータ専門学校 中村 駿太</p> <p>【5班】 5名 新潟南高等学校1年男子、新津高等学校1年男子、新潟南高等学校2年男子、巻高等学校1年女子、新潟第一高等学校2年男子 〔ファシリテーター〕 敬和学園大学 中村 美桜 〔書記〕 新潟コンピュータ専門学校 木津 一希</p> <p>【6班】 5名 新津高等学校1年男子、新潟第一高等学校2年男子、新潟南高等学校1年男子、新潟工業高等学校2年男子、敬和学園高等学校2年女子 〔ファシリテーター〕 敬和学園大学 小林 明日香 〔書記〕 新潟コンピュータ専門学校 山尾 久志</p>
--	--

主担当

安心ネットづくり促進協議会	事務局
新潟県サイバー脅威対策協議会事務局(新潟県警サイバー犯罪対策課) 新潟コンピュータ専門学校	会場手配、什器備品手配 飲食手配、庶務
株式会社ラック	庶務
各団体、事業者等	講演、ノベルティ、資料提供 他

8. 高校生 ICT Conference 2017 in 東京 開催概要

概要	高校生、教員、企業関係者など 64 名の参加者を得て、「 高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×(家族・学校・地域) ～ 」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。
----	---

【リアル熟議】

司会進行・主旨説明：

一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会

常務理事 吉岡 良平 様

高校生 ICT Conference の趣旨や概要、熟議のテーマ、本日の大まかな流れについて説明していただきました。

開会の挨拶：

内閣府 青少年環境整備担当 参事官補佐（専門官） 山本 正文 様

高校生 ICT Conference の目的（教育的側面、情報モラル・リテラシーの向上）に非常に注目されたこと、本日はリラックスして取り組んでほしい旨、お話しをいただきました。内閣府では、スマホ時代の到来に対して「青少年インターネット環境整備法」の改定を行い環境の整備を進めており、今日は、自分が強く望んだことは叶うということ、人をおもんばかることを鑑みながら楽しく議論を行ってほしいとの激励のお言葉をいただきました。

総務省 関東総合通信局 電気通信事業課 課長 青山 智明 様

総務省 関東総通局では、2020年の東京オリンピック開催に向けて、世界中から来る選手や観客の皆さんのためにインフラ環境の整備を進めていること、より臨場感のある映像を届けるため4K、8Kの推進を進めていることについてご説明いただきました。現在は第4次産業革命ともいわれ情報通信が身近に使われているが、ネット依存や架空請求等、最近は小学生等にもトラブルが広がって危機感を感じており、今日は、スマホ等を安心・安全に使ってもらえる環境を高校生の皆さんに考えてもらえればとのお言葉をいただきました。

第一部：事業者による講演

グリー株式会社 安心安全マネージャー 小木曾 健 様

本日のテーマに沿って議論を行う上で共通認識を合わせることが大切だが、心豊か、すなわち「幸せ」とは人それぞれ価値観が違い、基準を合わせることが難しいことについてお話しをいただきました。その上で、自分にとっての心の豊かさについてしっかりと考え議論に入った方がよいとのアドバイスをいただき、ICTがこれからどんな環境を与えてくれるのかについてもご紹介をいただきました。最後に、「日常生活とICTの境目がなくなる」という表現は間違いで、すでに「日常生活とICTの境目はなく、今でもつながりっぱなし」であるというご説明をいただき、物事の本質を忘れないことが大切であるとお言葉をいただきました。参加した生徒はしっかりとメモを取りながら、午後の熟議に向けての準備をしていました。

グループ分け、自己紹介

学校毎に発声練習も兼ねて自己紹介と本日の意気込みを発表していただきました。

茨城県立土浦工業高等学校
筑波大学附属桐が丘特別支援学校
埼玉県立浦和高等学校
東京都立農芸高等学校
茨城県立神栖高等学校（発表順）

その後、ファシリテーターの紹介をしてから4グループに分かれ、まずは改めてグループ毎に自己紹介を行いながら緊張をほぐしていきました。

第二部：熟議「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～」

グループに分かれ高校生熟議を開始しました。メモや付箋紙を活用しながら模造紙に貼り付けて意見を整理分類しまとめて行きました。細かなテーマにしぼった班や少し大きなテーマで取り組んだ班などいろいろとありました。また企業の方もサポーターとして入っていただきました。専門的な質問が出るとすばやく答えてくださいました。

議論のまとまったグループから発表用プレゼン資料の作成を進め、時間ぎりぎりまで発表の練習等を行っていました。

第三部：グループ発表

プレゼンテーションソフトを活用して各グループ3分程度の発表を行いました（詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください）。

《各グループタイトル》

グループ2：「ICT」と「心豊か」

グループ3：愛と充実

グループ4：BOSSの考える心豊かな生活

グループ1：愛CTの出発 今は、T→C→I？（発表順）

各グループ、時間を守りながら、熟議でまとめた内容を大きな声で発表してくれました。

グループ発表終了後、11月3日に開催される東京サミットに行く代表選考を行い、茨城県立土浦工業高等学校が代表校に選出され、サミットへの意気込みを発表してくれました。

講評：

ネット教育アナリスト 尾花 紀子 様

最後に、尾花様より講評をいただきました。講評では、一人も置いてけぼりにならずに熟議が進められていたことが非常に嬉しかったとの感想をまずいただきました。

今年は非常に難しいテーマでしたが、各グループにおいて「心豊か」を考える際

	<p>に、愛や愛情といったことが多く発言として出ていたこと、勉強が生徒の皆さんの「心豊か」を邪魔している（時間がない）との意見が出ていたが、大人になると他人のために自分の時間を使うことも多く、非常にうらやましいことであることについてお話しいただきました。</p> <p>また、生徒の皆さんは日常における時間の使い方が上手く、勉強もしながらネットでもつながり現実でも生かそうとしていること、学校や塾、SNS 等でも今日、熟議を行って考えたことを広めていって欲しいという貴重なご意見もいただきました。</p>
参加校：	<p>茨城県立神栖高等学校 茨城県立土浦工業高等学校 東京都立農芸高等学校 埼玉県立浦和高等学校 筑波大学附属桐が丘特別支援学校（順不同）</p>
日 時：	2017年10月7日（土） 10:30-17:00
場 所：	東京ユビキタス協創広場 CANVAS（内田洋行）
参加人数：	<p>熟議参加生徒 22人 見学者・関係者 42人（教員・教育関係者・その他） 合計：64人</p>
熟議グループ：	<p>熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略）</p> <p>【第1班】5名 茨城県立神栖高等学校3年男子、茨城県立神栖高等学校2年女子、茨城県立土浦工業高等学校3年女子、茨城県立土浦工業高等学校1年男子、筑波大学附属桐が丘特別支援学校2年男子 〔ファシリテーター〕 JSSEC 菅野 泰彦</p> <p>【第2班】5名 茨城県立神栖高等学校3年男子、茨城県立神栖高等学校2年女子、茨城県立土浦工業高等学校3年女子、茨城県立土浦工業高等学校1年男子、筑波大学附属桐が丘特別支援学校2年男子 〔ファシリテーター〕 お茶の水女子大学 教授 猪俣登美子</p> <p>【第3班】6名 茨城県立神栖高等学校2年女子、茨城県立神栖高等学校1年女子、茨城県立神栖高等学校1年男子、茨城県立土浦工業高等学校2年男子、東京都立農芸高等学校2年女子、埼玉県立浦和高等学校2年男子 〔ファシリテーター〕 鎌倉女学院 教諭 佐藤 正二</p>

	<p>【第4班】6名 茨城県立神栖高等学校2年女子、茨城県立神栖高等学校1年女子、茨城県立神栖高等学校1年男子、茨城県立土浦工業高等学校2年男子、東京都立農芸高等学校2年女子、埼玉県立浦和高等学校1年男子 [ファシリテーター] ストップイットジャパン株式会社 谷山 大三郎</p>
--	--

主担当

安心ネットづくり促進協議会	事務局、庶務、撮影等
モバイルコンテンツ審査・運用監視機構	記録、受付等
草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会	司会、受付等
各団体、事業者等	挨拶、講演、ファシリテーター 他

9. 高校生 ICT Conference 2017 in 神奈川 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など71名の参加者を得て、「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×(家族・学校・地域)～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>司会進行 NPO 情報セキュリティフォーラム 柿本 圭介 様 高校生 ICT Conference の概要及び当日の大まかな流れを説明していただきました。</p> <p>開会の挨拶 経済産業省 商務情報政策局 情報経済課 課長補佐 岡北有平 様 少子高齢化社会に向けて、経済産業省としては、テクノロジー（新しい技術）を推奨している。 タクシーの自動運転、ドローンなどの技術で労働力はカバーできるが、また新しい雇用が生まれる。 今後はテクノロジーとどのように付き合っていくかを考える事が重要である。</p> <p>総務省 関東総合通信局 情報通信部 部長 山下 朝文 様 総務省関東総合通信局の取組みについてお話し頂き、ICTカンファレンスとの関係をお話し頂いたのち、テーマについてお話し頂きました。</p> <p>第一部：事業者による講演 グリー株式会社 安心安全マネージャー 小木曾 健 様 本日のテーマに沿って議論を行う上で共通認識を合わせることが大切だが、心豊</p>
----	--

か、すなわち「幸せ」とは人それぞれ価値観が違い、基準を合わせることは難しいことについてお話しをいただきました。その上で、自分にとっての心の豊かさについてしっかりと考え議論に入った方がよいとのアドバイスをいただき、ICTがこれからどんな環境を与えてくれるのかについてもご紹介をいただきました。最後に、「日常生活とICTの境目がなくなる」という表現は間違いで、すでに「日常生活とICTの境目はなく、今でもつながりっぱなし」であるというご説明をいただき、物事の本質を忘れないことが大切であるとお言葉をいただきました。参加した生徒はしっかりとメモを取りながら、午後の熟議に向けての準備をしていました。

②株式会社ディー・エヌ・エー

デライトドライブ本部カスタマーサービス部 山田勝之 様

インターネットの今後の発展にあわせて、出会い、個人情報管理、情報発信、コミュニケーショントラブルなど事例を紹介しながら説明頂き、回避策について講義頂きました。

学校紹介

参加8校より、学校の紹介をそれぞれ行っていただきました。

グループ分け、自己紹介

7つのグループに分かれ、各グループ内で自己紹介などを実施しました。

第二部：熟議「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～」

グループに分かれ、卒業生や専門学校生、教育委員会の方がファシリテーターとなって、高校生熟議を開始しました。メモや付箋紙を活用しながら模造紙に貼り付けて意見を整理分類しまとめて行きました。

第三部：グループ発表

各グループともプレゼンテーションソフトを活用して3分程度の発表を行いました。（詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください）

その後、参加生徒により、11月3日に開催される東京サミットに行く代表校の選定投票を行い、「クラーク記念国際高等学校厚木キャンパス」が代表校に選出され、発表されました。

講評：情報科学専門学校 教務部長 川上 隆 様

今回のテーマの中である「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～」と難しいテーマに対しての真剣な討議についておほめの言葉を頂いた後、各グループ1つ1つについて講評いただきました。

参加校：

クラーク記念国際高等学校厚木キャンパス
神奈川県立大和南高等学校
神奈川県立神奈川工業高等学校

	<p>緑ヶ丘女子高等学校 横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 日出学園中学校・高等学校 鎌倉女学院高等学校 神奈川県立藤沢清流高等学校 (順不同)</p>
日 時 :	2017年9月10日(日) 10:00-17:00
場 所 :	学校法人岩崎学園 横浜西口2号館
参加人数 :	<p>熟議参加生徒 34人 見学者・関係者 37人(教員・教育関係者・その他) 合計:71人</p>
熟議グループ :	<p>熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。(敬称略)</p> <p>【1班】 5名 神奈川県立神奈川工業高等学校2年女子、神奈川県立大和南高等学校3年女子、鎌倉女学院高等学校1年女子、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校2年男子、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校1年男子 〔ファシリテーター〕 神奈川県教育委員会 橋本 雅史 〔書記〕 情報科学専門学校 赤谷 未来</p> <p>【2班】 4名 神奈川県立藤沢清流高等学校1年女子、クラーク記念国際高等学校厚木キャンパス2年女子、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校2年男子、神奈川県立神奈川工業高等学校2年男子 〔ファシリテーター〕 神奈川県立総合教育センター 小澤 美紀 〔書記〕 情報科学専門学校 結城 真菜</p> <p>【3班】 5名 クラーク記念国際高等学校厚木キャンパス2年女子、神奈川県立神奈川工業高等学校3年女子、日出学園中学校・高等学校2年男子、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校1年男子、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校2年男子 〔ファシリテーター〕 鎌倉女学院OG 佐々 日向子 〔書記〕 情報科学専門学校 長田 剣将</p> <p>【4班】 5名 クラーク記念国際高等学校厚木キャンパス2年女子、神奈川県立神奈川工業高等学</p>

	<p>校 3 年女子、日出学園中学校・高等学校 2 年男子、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 1 年男子、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 2 年男子 〔ファシリテーター〕</p> <p>鎌倉女学院 OG 井出 凧砂 〔書記〕</p> <p>情報科学専門学校 水野 源帥</p> <p>【5 班】 4 名</p> <p>神奈川県立藤沢清流高等学校 1 年男子、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 1 年男子、鎌倉女学院高等学校 2 年女子、日出学園中学校・高等学 2 年女子 〔ファシリテーター〕</p> <p>NPO 情報セキュリティフォーラム 中島 尚樹 〔書記〕</p> <p>情報科学専門学校 玉村 響</p> <p>【6 班】 5 名</p> <p>クラーク記念国際高等学校厚木キャンパス 3 年男子、鎌倉女学院高等学校 1 年女子、神奈川県立大和南高等学校 3 年女子、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 1 年男子、神奈川県立藤沢清流高等学校 1 年男子 〔ファシリテーター〕</p> <p>NPO 情報セキュリティフォーラム 下條 秋太郎 〔書記〕</p> <p>情報科学専門学校 鶴田 智貴</p> <p>【7 班】 5 名</p> <p>神奈川県立藤沢清流高等学校 1 年男子、クラーク記念国際高等学校厚木キャンパス 3 年男子、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 2 年男子、神奈川県立大和南高等学校 2 年女子、鎌倉女学院高等学校 1 年女子 〔ファシリテーター〕</p> <p>NPO 情報セキュリティフォーラム 佐藤 初枝 〔書記〕</p> <p>情報科学専門学校 佐々木 勁太</p>
--	--

主担当

NPO 情報セキュリティフォーラム	会場、会場設営、食事提供、交通費提供、司会、ファシリテーター、書記、庶務 他
安心ネットづくり促進協議会	事務局、受付
府省庁、各団体、事業者等	挨拶、講演、ノベルティ、資料提供 他

10. 高校生 ICT Conference 2017 in 静岡 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など 45 名の参加者を得て、「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×(家族・学校・地域) ～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>【リアル熟議】 司会進行・主旨説明 草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会 吉岡 良平 様 高校生 ICT Conference の概要及び当日の大まかな流れを説明していただきました。</p> <p>開会の挨拶 専門学校 静岡電子情報カレッジ 校長 中村 徹 様 開会に際し、参加した生徒に将来の期待と、今日の議論を家庭・学校・地域に持ち帰って活動に活かして欲しい旨のご挨拶をいただきました。</p> <p>総務省 東海総合通信局 情報通信部 電気通信事業課長 加藤 明彦 様 第 4 次産業革命の時代に入り、これからは ICT を中心に世の中は変わっていくことへの期待と、インターネット・スマホは世の中を便利にしたが一方でトラブルを発生させる要因にもなっていることを踏まえ、ICT を豊かに使っていくためにどうすべきかを考え議論し、高校生として新鮮な発想が生まれてくる期待についてお話をいただきました。</p> <p>第一部：事業者による講演 ①LINE 株式会社 公共政策室 高橋 誠 様 世の中には変わるもの、変わらないものがある。新しい未来について、いつ・誰が・どこで・何を・どのように利活用していくか、今とは別な発想で考えて欲しいというお話をいただきました。</p> <p>②浜松子どもとメディアリテラシー研究所 長澤 弘子 様 インターネットやスマホは、人生を楽しくするものではあるが、そこには危険も潜んでいることについて、具体的な事案を使ってゲーム形式で、体現しました。そのうえで、様々なケースを考え、自由な発想で議論して心の豊かさを考えて欲しい旨のお話をいただきました。</p> <p>各プレゼンの内容をしっかり参加生徒はメモをとりながら次の熟議に備えていました。各プレゼンの内容も 現在の問題点、今後の課題、これからの活用方法、企業の立場からの提案など いろいろなアイデアが盛り込まれていて教員にも大変有意義なものでした。</p> <p>アイスブレイク、 自己紹介 5 つのグループに分かれ、アイスブレイクの後、各グループ内で自己紹介などを実</p>
----	--

	<p>施しました。</p> <p>第二部：熟議「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～」 グループに分かれ参加校の引率先生がファシリテーターとなって、高校生熟議を開始しました。メモや付箋紙を活用しながら模造紙に貼り付けて意見を整理分類しまとめて行きました。</p> <p>第三部：グループ発表 各グループともプレゼンテーションソフトを活用して3分程度の発表を行いました。（詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください）</p> <p>その後、参加生徒により、11月3日に開催される東京サミットに行く代表校の選定投票を行い、日本大学三島高等学校が代表校に選出され、発表されました。</p> <p>最後に、専門学校 静岡電子情報カレッジ 有賀 浩 教頭より講評と閉会のご挨拶をいただきました。</p>
参加校：	<p>日本大学三島高等学校 静岡市立清水桜が丘高等学校 加藤学園暁秀高等学校 静岡理工科大学静岡北高等学校（順不同）</p>
日時：	2017年9月23日（土・祝） 10:00-17:00
場所：	専門学校 静岡電子情報カレッジ 森下町キャンパス（静岡市駿河区森下町4-25）
参加人数：	<p>熟議参加生徒 26人 見学者・関係者 19人（教員・教育関係者・その他） 合計：45人</p>
熟議グループ：	<p>熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略）</p> <p>【グループ名：桜島】 6名 日本大学三島高等学校2年女子、静岡市立清水桜が丘高等学校1年女子、日本大学三島高等学校2年男子、静岡市立清水桜が丘高等学校1年男子、日本大学三島高等学校2年男子、静岡市立清水桜が丘高等学校3年女子 〔ファシリテーター〕 専門学校 静岡電子情報カレッジ 卒業生 高橋卓也</p> <p>【グループ名：欲の極み乙女】 5名 加藤学園暁秀高等学校1年女子、加藤学園暁秀高等学校1年女子、日本大学三島高等学校2年女子、加藤学園暁秀高等学校1年女子、静岡市立清水桜が丘高等学校1年女子 〔ファシリテーター〕 専門学校 静岡電子情報カレッジ 教員 中村健太郎</p>

<p>【グループ名：クローバ】 4名 日本大学三島高等学校2年男子、日本大学三島高等学校2年女子、日本大学三島高等学校2年男子、静岡市立清水桜が丘高等学校1年女子 [ファシリテーター] 専門学校 静岡電子情報カレッジ 教員 五味正太郎</p> <p>【グループ名：「ヤドカリとマンボウ」JK】 5名 加藤学園暁秀高等学校1年女子、加藤学園暁秀高等学校1年女子、加藤学園暁秀高等学校1年女子、日本大学三島高等学校2年女子、静岡市立清水桜が丘高等学校2年女子 [ファシリテーター] 浜松子どもとメディアリテラシー研究所 長澤弘子</p> <p>【グループ名：Team QOL】 6名 日本大学三島高等学校2年男子、加藤学園暁秀高等学校1年女子、静岡市立清水桜が丘高等学校2年男子、日本大学三島高等学校2年女子、静岡市立清水桜が丘高等学校1年男子、静岡理工科大学静岡北高等学校3年男子 [ファシリテーター] 情報セキュリティフォーラム 廣瀬由美</p>
--

主担当

安心ネットづくり促進協議会	事務局
静岡電子情報カレッジ 株式会社ラック	会場、什器備品手配 飲食手配、庶務
各団体、事業者等	講演、ノベルティ、資料提供 他

11. 高校生 ICT Conference 2017 in 三重 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など 50 名の参加者を得て、「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>【リアル熟議】 司会進行・主旨説明 草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会 常務理事 吉岡 良平 様 高校生 ICT Conference の概要及び本日の大まかな流れを説明していただきました。</p> <p>開会の挨拶 総務省 東海総合通信局 電気通信事業課 課長 加藤 明彦 様 スマートフォンなどのデジタルデバイスの普及が生活スタイルをどのように変</p>
----	--

えたかをご自身の少年時代と比較された上で「包丁は料理に欠かせない道具であるが人を殺す道具にもなる。自動車も我々の行動範囲を大きく広げてくれるが、ルールを守らなければ事故につながる。スマートフォンも同様で、便利な道具ではあるが使い方を間違えると大変なことになる。ICTをどう活用し心豊かな生活につなげるかを、他の高校の生徒と議論をすることは貴重な機会となるだろう。高校生らしいユニークな議論と発表をして欲しい」と述べられました。

参加校紹介、ファシリテータ・書記紹介、アイスブレイク

参加校生徒、ファシリテータ・書記がそれぞれ意気込みを語った後、熟議を行う6つのグループに分かれて自己紹介を行いました。

その後「コピー用紙積み上げゲーム」にグループ対抗で挑戦しました。

第一部：熟議①「スマートフォンの便利さと問題点」

与えられた下記の事前課題について、グループで熟議を行いました。

【Q1】スマートフォン等を使用して、便利と思うことは何ですか。

【Q2】スマートフォン等の問題点や危険性は何ですか。

【Q3】【Q2】を解決するために、あなたはどのようなことができると思いますか。

昼食休憩

第一部：ミニ講演

岡崎女子大学 子ども教育学部 花田経子 先生

大学でのゼミの様子やご自身の子育ての体験から、「デジタルネイティブはすべてデジタルでものを考えているわけではなく、デジタルとアナログを区別していないだけ」と、世代間で経験しているICTサービスやデバイスにギャップがあることを考慮すべきと語り、また「高校生はサービスを受ける側の責任として自分の命を守る立場だが、将来はサービスを提供する側の責任として他者の命を守る立場になることを今から考えて欲しい」と述べられました。

第二部：熟議②「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～」

熟議①とミニ講演を踏まえ、事前課題の

【Q4】自他の命を大切にし、心豊かな生活を実現するために、あなたはスマートフォン等をどのように利活用できると思いますか。

についてグループ内での意見交換及び討議を行い、「自他の命を大切にし、心豊かな生活を実現するために、スマートフォン等をどのように利活用していくか」について、グループの意見をまとめました。

第三部：グループ発表

各グループともプレゼンテーションソフトを活用して3分程度の発表を行いました。（詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください）

	<p>その後、参加生徒により、11月3日に開催される東京サミットに行く代表校の選定投票を行い、桑名北高等学校が代表校に選出され、発表されました。</p> <p>全体講評：岡崎女子大学 子ども教育学部 花田経子 先生</p> <p>「午前中は少しおとなしいかなと感じたが、午後から元気が出てきて活発な議論になり、最後はグループ内で意見を出す人、まとめる人など自然に役割分担ができてきた」</p> <p>「時間が足りなかったと感じたかもしれないが、短い時間で濃い議論をするためには、コミュニケーション＝『意味の共有』をきちんと行う技術が必要。ここで学んだ技術を別の機会でも生かして行って欲しい」とまとめていただきました。</p>
参加校：	<p>三重県立桑名北高等学校 三重県立四日市南高等学校 三重県立飯野高等学校 三重県立稲生高等学校 三重県立津高等学校 三重県立宇治山田商業高等学校 三重県立伊勢工業高等学校 三重県立あけぼの学園高等学校 三重県立名張高等学校 三重県立尾鷲高等学校 セントヨゼフ女子学園高等学校 鳥羽商船高等専門学校</p> <p style="text-align: right;">(順不同)</p>
日時：	2017年9月30日(木) 10:00-15:00
場所：	三重県庁 講堂 (三重県津市広明町13番地)
参加人数：	<p>熟議参加生徒 30人 見学者・関係者 20人(教員・教育関係者・その他) 合計：50人</p>
熟議グループ：	<p>熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。(敬称略)</p> <p>【1班】 5名 四日市南高等学校1年男子、津高等学校2年女子、あけぼの学園高等学校3年女子、伊勢工業高等学校2年男子、宇治山田商業高等学校2年女子 〔ファシリテーター〕 三重大学 少年警察学生ボランティア 水口佑華 〔書記〕 皇學館大学 少年警察学生ボランティア 滝澤里枝奈</p> <p>【2班】 5名</p>

桑名北高等学校2年男子、飯野高等学校1年女子、津高等学校2年女子、鳥羽商船高等専門学校3年男子、名張高等学校2年男子

〔ファシリテーター〕

鈴鹿医療科学大学 少年警察学生ボランティア 菊池 恭子

〔書記〕

高田短期大学 サイバー防犯ボランティア 高木 遥香

【3班】 5名

津高等学校2年男子、セントヨゼフ女子学園高等学校1年女子、宇治山田商業高等学校2年女子、名張高等学校1年女子、尾鷲高等学校3年男子

〔ファシリテーター〕

至學館大学 少年警察学生ボランティア 後藤舞子

〔書記〕

高田短期大学 サイバー防犯ボランティア 鈴木希望

【4班】 5名

四日市南高等学校1年男子、飯野高等学校1年女子、宇治山田商業高等学校2年女子、鳥羽商船高等専門学校3年男子、尾鷲高等学校3年男子

〔ファシリテーター〕

四日市大学 少年警察学生ボランティア 平野智也

〔書記〕

高田短期大学 サイバー防犯ボランティア 森川月

高田短期大学 村上莉音

【5班】 5名

四日市南高等学校1年男子、稲生高等学校3年男子、セントヨゼフ女子学園高等学校1年女子、伊勢工業高等学校2年男子、名張高等学校1年女子

〔ファシリテーター〕

皇學館大学 少年警察学生ボランティア 北村魁都

〔書記〕

高田短期大学 サイバー防犯ボランティア大学 藤原 沙衣

高田短期大学 別宮 茜

【6班】 4名

四日市南高等学校1年男子、稲生高等学校3年男子、セントヨゼフ女子学園高等学校1年女子、尾鷲高等学校3年女子

〔ファシリテーター〕

皇學館大学 少年警察学生ボランティア 大川喬司

〔書記〕

高田短期大学 サイバー防犯ボランティア 鈴木美玖

主担当

安心ネットづくり促進協議会	事務局
三重県 三重県教育委員会 三重県警察本部	会場調整、什器備品手配 飲食手配、庶務
各団体、事業者等	講演、ノベルティ、資料提供 他

12. 高校生 ICT Conference 2017 in 大阪 開催概要

<p>概要</p>	<p>高校生、教員、企業関係者など93名の参加者を得て、「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>開会の挨拶</p> <p>総務省 近畿総合通信局 情報通信部 電気通信事業課 課長 吉田 丈夫 様</p> <p>総務省や近畿総合通信局での、ICTに関する取り組みや、高校生 ICT Conference の関係などについて、お話をいただきました。</p> <p>第一部：事業者による講演</p> <p>デジタルアーツ株式会社 経営企画部 経営企画課</p> <p>政策担当課長 チーフエバンジェリスト 工藤 陽介 様</p> <p>ネットのトラブル事例について、参加生徒に考えて頂きながら話しをして頂き、その後、今回のテーマである「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～」を議論するうえでのコツを、3つのポイント、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「企業や大人への要求ではなく、高校生を主語にして議論してほしい」 2. 「高校生の強みを活かして欲しい」 3. 「漠然と考えるのではなく、学校・地域・家庭に分解すると考えやすい」 <p>を説明頂きました。</p> <p>今回のテーマに対して議論する上で大変参考になったと思います。</p> <p>一般社団法人・情報教育研究所 代表理事 永坂 武城 様</p> <p>高校生が議論を交わすにあたり心得ておいて欲しい『価値観の多様性』を受け止めてもらえるようワークを通して伝えていただきました。</p> <p>価値観の違いが現れやすいテーマを問い掛け、その違いを視覚的に感じ取れる手法です。</p> <p>好意的に行ったことが、価値観の違う人には不快に受け止めてしまうケースがあるなど体感した高校生は、いくつかの気づきを得ていたようです。</p> <p>ワークの後、相手の考え方を『認めること』『尊重すること』『歩み寄ること』が大切だとし『違うことが面白い』と思えたら良いですねと、締めくくった。</p>
-----------	---

	<p>ファシリテーター・参加校紹介 および グループ分け</p> <p>参加学校ごとに、簡単に学校紹介と自己紹介をしていただきました。その後ファシリテーターを務める大学生から本日の目標と担当グループの発表が行われました。</p> <p>アイスブレイク、熟議注意点説明</p> <p>大阪府立東百舌鳥高等学校 勝田先生</p> <p>名前リレーで自己紹介しながら緊張をほぐした後、午後の熟議に向け説明いただきました。</p> <p>第二部：熟議「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～」</p> <p>グループに分かれ大学生がファシリテーターとなって、高校生熟議を開始しました。心豊かな生活について、メモや付箋紙を活用しながら模造紙に貼り付けて意見を整理、分類しまとめて行きました。テーマにしぼった班や3つのテーマに取り組んだ班などいろいろとありました。</p> <p>熟議の中で分からない事は、企業の方もサポーターとして入っていただき、すばやく答えてくださいました。</p> <p>ファシリテーターは今回も、大学生など「ICT カンファレンス」の先輩でることから、議論しやすい環境が構築され、また事前に打合せを行い、フォームやまとめ方を打ち合わせなどを行い、滞りなくまとめることができました。</p> <p>第三部：グループ発表</p> <p>各グループともプレゼンテーションソフトを活用して3分程度の発表を行いました。</p> <p>講評： 高校生 ICT Conference 実行委員会 委員長 米田 謙三</p> <p>全体講評をいただきました。</p> <p>各グループの発表を振り返り、1つ1つポイント・キーワードをあげて丁寧にコメントをいただきました。その後、各校の引率の先生と生徒代表が集まり、11月3日に開催される東京サミットに行く代表校の選定投票を行い、仙台城南高等学校が代表校に選出され、発表されました。</p> <p>引率の先生と各校の生徒代表、ファシリテーターが集まり、11月3日に開催されるサミットの代表選考を行い、関西学院千里国際高等部が代表校に選出され、発表されました。</p>
<p>参加校：</p>	<p>大阪市立東高等学校 兵庫立千種高等学校 金蘭会高等学校 羽衣学園高等学校 大阪府立今宮高等学校</p>

	大阪府立旭高等学校 神戸学院大学附属高等学校 東海大学付属仰星高等学校 関西学院千里国際高等部 神戸大学附属中等教育学校 (順不同)
日 時 :	2017年9月24日(日) 10:00-17:00
場 所 :	内田洋行 大阪ユビキタス協創広場 CANVAS
参加人数 :	熟議参加生徒 48人 見学者・関係者 45人(教員・教育関係者・その他) 合計 : 93人
熟議グループ :	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。(敬称略) 【第1班】6人 関西学院千里国際高等部 1年 女子 神戸大学附属中等教育学校 2年 女子 大阪市立東高等学校 3年 男子 金蘭会高等学校 2年 女子 兵庫県立千種高校学校 1年 男子 羽衣学園高等学校 1年 男子 〔ファシリテーター〕 関西大学 徳田 さくら 〔書記〕 関西大学 林 千尋 【第2班】6人 関西学院千里国際高等部 1年 女子 神戸大学附属中等教育学校 2年 女子 金蘭会高等学校 2年 女子 兵庫県立千種高校学校 1年 男子 羽衣学園高等学校 1年 男子 大阪市立東高等学校 1年 男子 〔ファシリテーター〕 大阪情報コンピュータ専門学校 柿元 俊也 〔書記〕 関西大学 木下 健児 【第3班】6人 大阪市立東高等学校 1年 女子 神戸大学附属中等教育学校 2年 女子 神戸学院大学附属高等学校 2年 女子

関西学院千里国際高等部 1年 女子
羽衣学園高等学校 3年 女子
羽衣学園高等学校 2年 男子

[ファシリテーター]

近畿日本鉄道 畠平 誠也

[書記]

大阪情報コンピュータ専門学校 金子 凌雅

【第4班】6人

大阪府立今宮高等学校 3年 女子
羽衣学園高等学校 1年 女子
神戸学院大学附属高等学校 2年 男子
東海大学付属仰星高等学校 1年 女子
関西学院千里国際高等部 3年 女子
大阪市立東高等学校 3年 男子

[ファシリテーター]

大阪情報コンピュータ専門学校 田中 陸斗

[書記]

関西大学 北垣 貴寛

【第5班】6人

大阪市立東高等学校 3年 女子
大阪府立今宮高等学校 3年 男子
羽衣学園高等学校 1年 女子
東海大学付属仰星高等学校 1年 男子
神戸学院大学附属高等学校 1年 男子
関西学院千里国際高等部 3年 女子

[ファシリテーター]

神戸親和女子大学 原 英莉

[書記]

大阪工業大学 本田 麻依

【第6班】6人

神戸学院大学附属高等学校 1年 男子
東海大学付属仰星高等学校 1年 男子
大阪市立東高等学校 2年 女子
大阪府立旭高等学校 2年 女子
羽衣学園高等学校 1年 女子

大阪府立今宮高等学校 3年 男子

[ファシリテーター]

大阪工業大学 増井 宏昌

[書記]

大阪信愛女学院短期大学 坂本 百香

【第7班】6人

羽衣学園高等学校 1年 女子

大阪府立旭高等学校 3年 女子

大阪府立今宮高等学校 3年 男子

東海大学付属仰星高等学校 1年 女子

神戸学院大学附属高等学校 2年 女子

大阪市立東高等学校 2年 女子

[ファシリテーター]

関西大学 小篠 弘奈

[書記]

園田学園女子大学 川崎 紗葉

【第8班】5人

大阪府立旭高等学校 3年 男子

金蘭会高等学校 2年 女子

東海大学付属仰星高等学校 3年 男子

大阪市立東高等学校 2年 女子

神戸学院大学附属高等学校 2年 女子

[ファシリテーター]

関西大学 池西 風美

[書記]

大阪体育大学 不破 亜希子

主担当

大阪私学教育情報化研究会		会場、ファシリテーター育成、受付、庶務 等
大阪府立東百舌鳥高等学校	勝田	司会
安心ネットづくり促進協議会	高橋	事務局、庶務
各地協力団体、事業者、大学等		挨拶、講演、ファシリテーター、書記、庶務 他

13. 高校生 ICT Conference 2017 in 奈良 開催概要

<p>概要</p>	<p>高校生、教員、企業関係者など67名の参加者を得て、「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×(家族・学校・地域)～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>司会進行 県立王寺工業高校 教諭 松本 様 高校生 ICT Conference の概要及び本日の大まかな流れを説明していただきました。</p> <p>開会の挨拶 消費者庁 消費者政策課 主査 山口 正人 様 出会い系サイトや、各種詐欺、オンラインゲーム等での ID の売買など様々なトラブルが発生し、内容も変化している。 トラブルに巻き込まれる方は、知識も無く警戒心も薄い。本日参加の皆様は、意識が高い方が集まっていると思うので、自分はもちろん、自分のまわり人も守れる人間になってください。</p> <p>総務省 近畿総合通信局 電気通信事業課 課長 吉田 丈夫 様 総務省近畿総合通信局の取組みについてお話し頂き、本日の成果についても取組みに活かしていきたい。 本日は、高校生が集まり議論する場ですので、本音での議論を期待しています。</p> <p>第一部：事業者による講演 エースチャイルド株式会社 代表取締役 CEO 西谷 雅史 様 「ICT 利活用と心豊かな生活 ～未来を想像する3つのヒント～」 “ICT 利活用”、“心豊か”、“未来の ICT” というキーワードごとに ICT の 5 年後・10 年後に想像できること、未来に変化をもたらしていく新興技術と取組みの最新事例についてお話しいただきました。</p> <p>デジタルアーツ株式会社 経営企画部 経営企画課 政策担当課長 チーフエバンジェリスト 工藤 陽介 様 ネットのトラブル事例について、参加生徒に考えて頂きながら話しをして頂き、その後、今回のテーマである「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×(家族・学</p>
-----------	---

	<p>校・地域)～」を議論するうえでのコツを、3つのポイント、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「企業や大人への要求ではなく、高校生を主語にして議論してほしい」 2. 「高校生の強みを活かして欲しい」 3. 「漠然と考えるのではなく、学校・地域・家庭に分解すると考えやすい」 <p>を説明頂きました。</p> <p>今回のテーマに対して議論する上で大変参考になったと思います。</p> <p>学校紹介、ファシリテーター紹介</p> <p>参加9校より、学校の紹介をそれぞれ行っていただき、その後、先輩であるファシリテーターの皆様にご自己紹介をしていただきました。</p> <p>アイスブレイク</p> <p>熟議の前にアイスブレイクとして、お題に沿った議論を行い、各グループごとに議論の結果を発表しました。</p> <p>第二部：熟議「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT× (家族・学校・地域)～」</p> <p>グループに分かれ大学生がファシリテーターとなって、高校生熟議を開始しました。心豊かな生活について、メモや付箋紙を活用しながら模造紙に貼り付けて意見を整理、分類しまとめて行きました。テーマにしぼった班や3つのテーマに取り組んだ班などいろいろとありました。</p> <p>熟議の中で分からない事は、企業の方もサポーターとして入っていただき、すばやく答えてくださいました。</p> <p>ファシリテーターは今回も、大学生など「ICTカンファレンス」の先輩でることから、議論しやすい環境が構築され、また事前に打合せを行い、フォームやまとめ方を打ち合わせなどを行い、滞りなくまとめることができました。</p> <p>第三部：グループ発表</p> <p>各グループともプレゼンテーションソフトを活用して3分程度の発表を行いました。</p> <p>帝塚山大学 経営学部・経営情報学部 教授 日置 慎治 様</p> <p>今回のテーマの中である「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT× (家族・学校・地域)～」と難しいテーマに対しての真剣な討議についておほめの言葉を頂いた後、各グループ1つ1つについて講評いただきました</p> <p>その後、参加生徒により、11月3日に開催される東京サミットに行く代表校の選定投票を行い、「奈良大学附属高等学校」が代表校に選出され、発表されました。</p>
参加校：	<p>奈良県立奈良朱雀高等学校</p> <p>関西中央高等学校</p> <p>奈良県立王寺工業高等学校</p> <p>奈良県立奈良情報商業高等学校</p>

	奈良学園高等学校 育英西高等学校 奈良県立高田高等学校 奈良県立奈良高等学校 奈良大学附属高等学校 (順不同)
日 時 :	2017年10月1日(日) 10:00-17:00
場 所 :	帝塚山大学 学園前キャンパス
参加人数 :	熟議参加生徒 28人 見学者・関係者 39人(教員・教育関係者・その他) 合計 : 67人
熟議グループ :	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。(敬称略) 【1班】 6名 奈良県立奈良朱雀高等学校 1年女子 奈良県立高田高等学校 1年男子 奈良県立奈良高等学校 2年男子 奈良県立王寺工業高等学校 1年男子 関西中央高等学校 2年男子 奈良大学附属高等学校 1年男子 [ファシリテーター] 畠平 誠也 [書記] 大阪情報コンピュータ専門学校 金子 凌雅 【2班】 6名 関西中央高等学校 2年男子 奈良県立王寺工業高等学校 2年男子 奈良県立奈良高等学校 2年男子 奈良県立高田高等学校 1年男子 奈良県立奈良朱雀高等学校 1年女子 奈良県立奈良情報商業高等学校 1年男子 [ファシリテーター] 大阪情報コンピュータ専門学校 柿元 俊也 【3班】 6名 育英西高等学校 2年女子 奈良県立奈良高等学校 2年男子 関西中央高等学校 1年男子 奈良県立王寺工業高等学校 2年男子

	<p>奈良県立奈良情報商業高等学校 1年女子 奈良県立奈良朱雀高等学校 1年女子</p> <p>[ファシリテーター] 大阪工業大学 本田 麻衣</p> <p>[書記] 神戸親和女子大学 原 英莉</p> <p>【4班】 5名 奈良県立奈良朱雀高等学校 2年女子 育英西高等学校 2年女子 奈良県立王寺工業高等学校 1年男子 奈良学園高等学校 1年女子 奈良県立高田高等学校 1年女子</p> <p>[ファシリテーター] 関西大学 池西 風美</p> <p>【5班】 5名 奈良県立高田高等学校 1年男子 奈良県立奈良朱雀高等学校 2年男子 奈良県立奈良朱雀高等学校 2年男子 奈良大学付属高等学校 2年男子 奈良県立王寺工業高等学校 1年女子</p> <p>[ファシリテーター] 大阪工業大学 増井 宏昌</p> <p>[書記] 大阪信愛女学院短期大学 坂本 百香</p>
--	--

14. 主担当

帝塚山大学	会場提供、会場設営、挨拶 他
高校生 ICT Conference OB,OG	ファシリテーター、書記
関西中央高等学校 奈良県立王寺工業高校	司会、会場設営、受付、庶務
安心ネットづくり促進協議会	事務局、受付
府省庁、各団体、事業者等	挨拶、講演、ノベルティ、資料提供 他

15. 高校生 ICT Conference 2017 in 山口 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など50名の参加者を得て、「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>【リアル熟議】 司会進行・主旨説明 サビエル高等学校 梅岡 克典 様 高校生 ICT Conference の概要及び本日の大まかな流れを説明していただきました。</p> <p>開会の挨拶 総務省中国総合通信局 情報通信部 電気通信事業課長 玉谷 悟 様 総務省で実施している安心・安全な青少年インターネット利用環境の整備の取り組み及び本カンファレンスに期待する点について、お話をいただきました。</p> <ul style="list-style-type: none">・ ILAS（青少年のインターネット・リテラシー指標）の調査結果・ 情報通信の安心安全な利用のための標語コンテスト・ 情報モラル・リテラシー安心講座「e-ネットキャラバン」 <p>第一部：事業者による講演 LINE 株式会社 政策企画室 高橋 誠 様 「ICT を活用した未来がどうなればいいのか想像してみよう」 世の中には変わるもの、変わらないものがある。新しい未来について、いつ・誰が・どこで・何を・どのように利活用していくか、今とは別な発想で考えて欲しいというお話をいただきました。</p> <p>エースチャイルド株式会社 代表取締役CEO 西谷 雅史 様 「ICT 利活用と心豊かな生活 ～未来を想像する3つのヒント～」 “ICT 利活用”、“心豊か”、“未来の ICT” というキーワードごとに ICT の5年後・10年後に想像できること、未来に変化をもたらしていく新興技術と取組みの最新事例についてお話いただきました。</p> <p>各プレゼンの内容をしっかり参加生徒はメモをとりながら次の熟議に備えていました。各プレゼンの内容も 現在の問題点、今後の課題、これからの活用方法、企業の立場からの提案など いろいろなアイデアが盛り込まれていて教員にも大変有意義なものでした。</p> <p>アイスブレイク、 自己紹介 5つのグループに分かれ、アイスブレイクの後、各グループ内で自己紹介、好きな食べ物について話し合いをしました。</p>
----	---

	<p>第二部：熟議「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～」</p> <p>グループに分かれ参加校の山口の大学生と協力事業者がファシリテーターと書記を担って、高校生熟議を開始しました。</p> <p>最初に「私たちの未来が心豊かになるような新たなネット機器」をテーマに熟議を行いました。今は存在していない架空のものも含め、メモや付箋紙を活用しながら模造紙に貼り付けて意見を整理分類しまとめて行きました。</p> <p>午後の部は山口県で近年激しい豪雨があり多くの人々が家を追われるなど、不便な生活を強いられた経験があること、山口県の総人口に対する65歳以上の人口は全国平均より高く、また、この20年間で増加し続けていることから、</p> <p>「未来のICT×災害」、「未来のICT×高齢者」を視点としてさらに加え、熟議を進めました。</p> <p>第三部：グループ発表</p> <p>「私たちの未来が心豊かになるような新たなネット機器」 「未来には災害時こんなICT機器が活躍するだろう」 「未来には高齢者はこんなICT使って生活しているだろう」</p> <p>各グループごとに発表するテーマを決め、プレゼンテーションソフトを活用してまとめ、3分程度の発表を行いました。</p> <p>その後、参加生徒により、11月3日に開催される東京サミットに行く代表校の選定投票を行い、野田学園高等学校が代表校に選出され、発表されました。</p> <p>最後に、ICT講演をいただいたLINE株式会社様、エースチャイルド株式会社より全体講評をいただきました。</p>
参加校：	野田学園高等学校 サビエル高等学校 山口県立小野田高等学校 山口県立厚狭高等学校（順不同）
日 時：	2017年9月24日（日） 10:00-17:00
場 所：	サビエル高等学校（山口県山陽小野田市くし山3丁目5-1）
参加人数：	熟議参加生徒 19人 見学者・関係者 31人（教員・教育関係者・その他） 合計：50人
熟議グループ：	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略） <p>【グループ名：ちよるる】4名 山口県立厚狭高等学校2年女子、野田学園高等学校2年男子、山口県立小野田高等学校2年女子、サビエル高等学校1年男子 〔ファシリテーター〕株式会社ラック 七條 麻衣子 〔書記〕山口県立大学 為國 海希</p>

	<p>【グループ名：はなっこりーず】 4名 山口県立厚狭高等学校2年女子、山口県立小野田高等学校2年男子、サビエル高等学校1年女子、野田学園高等学校2年男子 [ファシリテーター] エースチャイルド株式会社 青木 勲 [書記] 山口東京理科大学 木下 翔平</p> <p>【グループ名：チーム四本の矢】 4名 山口県立厚狭高等学校1年男子、サビエル高等学校1年女子、山口県立小野田高等学校2年女子、野田学園高等学校2年男子 [ファシリテーター] 山口大学教職大学院 天津 悠介 [書記] 山口大学教職大学院 福田 晴夏</p> <p>【グループ名：温泉たまご】 4名 サビエル高等学校1年男子、野田学園高等学校2年男子、山口県立小野田高等学校2年女子、山口県立厚狭高等学校2年女子、 [ファシリテーター] 山口大学教職大学院 宮崎 雅史 [書記] 山口大学教職大学院 河合 哲郎</p> <p>【グループ名：ねたろう's】 3名 サビエル高等学校1年女子、山口県立小野田高等学校2年女子、山口県立厚狭高等学校1年男子、 [ファシリテーター] 山口東京理科大学 甲斐 喬弥 [書記] 山口東京理科大学 川口 俊輝</p>
--	--

主担当

安心ネットづくり促進協議会	事務局
サビエル高等学校	会場調整、什器備品手配 飲食手配、記録、庶務
各団体、事業者等	講演、ファシリテーター、 資料提供 他

16. 高校生 ICT Conference 2017 in 高知 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など39名の参加者を得て、「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×(家族・学校・地域)～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>【リアル熟議】 司会進行・主旨説明 高知県立須崎高等学校 大原 信男 様</p>
----	---

高校生 ICT Conference の概要及び本日の大まかな流れを説明していただきました。

開会の挨拶

総務省四国総合通信局 情報通信部 電気通信事業課長 竹田 剛城 様

インターネットは、その利用により、買い物が便利になったり、個人でビジネスをするチャンスが広がったりと、生活する上で不可欠なサービスになってきている一方で、使いすぎによる中毒問題や出会い系サイトの問題などのトラブルも絶えない状況にあること。インターネットの利用に当たっては、まずは正確な知識を普及させることが必要で、総務省で実施しているe-ネットキャラバンをはじめ、安心・安全な青少年インターネット利用環境の整備の取り組み及び本カンファレンスに期待する点について、お話をいただきました。

第一部：事業者による講演

①株式会社サイバーエージェント メディアサポート室 中村 広毅 様

AbemaTV や AWA など提供するサービスを使った豊かな生活の事例、Ameba の安心・安全な利用のヘルプを参考に「個人情報取り扱い」「著作権侵害の注意」「危険な行為の助長の禁止」「誹謗中傷禁止」など注意点と対処方法についてご説明いただきました。

②ソフトバンク株式会社 渉外本部 約款・サービス部 佐治 健史 様

「インターネットを考えよう」というテーマで、インターネットとのかかわり方、付き合い方についてお話しいただきました。

過去から現在、この先の近い将来の事例を踏まえつつ、急速に発展するインターネットにかかる私たちの環境の変化などを紹介しつつ、インターネットがますます生活に必要な身近なものとなり、一方、それに伴うリスクも増えることから、私たちが如何にして、リスクを回避し、より便利にインターネットを利活用できるか、私たち自身が良く考え、付き合いがいかなければならないということをお伝えいただきました。

各プレゼンの内容をしっかり参加生徒はメモをとりながら次の熟議に備えていました。各プレゼンの内容も 現在の問題点、今後の課題、これからの活用方法、企業の立場からの提案など いろいろなアイデアが盛り込まれていて教員にも大変有意義なものでした。

アイスブレイク、 自己紹介

5つのグループに分かれ、アイスブレイクの後、各グループ内で自己紹介などを実施しました。

第二部：熟議「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～」

グループに分かれ参加校の引率先生がファシリテーターとなって、高校生熟議を

	<p>開始しました。メモや付箋紙を活用しながら模造紙に貼り付けて意見を整理分類しまとめて行きました。</p> <p>第三部：グループ発表</p> <p>各グループともプレゼンテーションソフトを活用して3分程度の発表を行いました。</p> <p>その後、参加生徒により、11月3日に開催される東京サミットに行く代表校の選定投票を行い、高知県立須崎高等学校が代表校に選出され、発表されました。</p> <p>最後に、高知県立岡豊高等学校 見元 菜緒美 先生より閉会のご挨拶をいただきました。</p>
参加校：	<p>高知県立須崎高等学校</p> <p>高知県立伊野商業高等学校</p> <p>高知県立安芸桜ヶ丘高等学校</p> <p>高知県立岡豊高等学校 (順不同)</p>
日時：	2017年8月14日(月) 9:30-16:00
場所：	高知県教育センター分館(高知市大原町132)
参加人数：	<p>熟議参加生徒 29人</p> <p>見学者・関係者 10人(教員・教育関係者・その他)</p> <p>合計：39人</p>
熟議グループ：	<p>熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。(敬称略)</p> <p>【グループ名：ヤイロチョウ】 5名 伊野商業高等学校2年女子、須崎高等学校3年女子、安芸桜ヶ丘高等学校1年女子、岡豊高等学校3年女子、岡豊高等学校3年女子 〔ファシリテーター〕 高知県立伊野商業高等学校 中村 佳子</p> <p>【グループ名：オオルリ】 6名 須崎高等学校2年女子、須崎高等学校2年男子、岡豊高等学校3年女子、安芸桜ヶ丘高等学校1年男子、伊野商業高等学校2年女子、伊野商業高等学校2年女子 〔ファシリテーター〕 高知県立岡豊高等学校 見元 菜緒美</p> <p>【グループ名：オナガドリ】 6名 伊野商業高等学校2年女子、伊野商業高等学校2年女子、安芸桜ヶ丘高等学校1年男子、須崎高等学校2年女子、須崎高等学校3年女子、岡豊高等学校2年女子 〔ファシリテーター〕 高知県立須崎高等学校 大原 信男</p>

	<p>【グループ名：メジロ】 6名 伊野商業高等学校2年女子、伊野商業高等学校2年女子、須崎高等学校3年女子、須崎高等学校2年女子、安芸桜ヶ丘高等学校1年男子、岡豊高等学校3年女子 〔ファシリテーター〕 高知県立伊野商業高等学校 菊田 幸希</p> <p>【グループ名：セグロセキレイ】 6名 須崎高等学校3年女子、須崎高等学校2年女子、安芸桜ヶ丘高等学校3年女子、岡豊高等学校3年女子、伊野商業高等学校2年女子、伊野商業高等学校2年女子 〔ファシリテーター〕 高知県立安芸桜ヶ丘高等学校 黒岩 ふみか</p>
--	---

主担当

安心ネットづくり促進協議会	事務局
須崎高等学校、伊野商業高等学校、安芸桜ヶ丘高等学校、岡豊高等学校	会場調整、什器備品手配 飲食手配、庶務
各団体、事業者等	講演、ノベルティ、資料提供 他

17. 高校生 ICT Conference 2017 in 福岡 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など83名の参加者を得て、「高校生が考える心豊かな生活 ～ICT×(家族・学校・地域)～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>司会進行・主旨説明 子どもねっと会議所 代表 井島 信枝 様</p> <p>来賓挨拶 総務省九州総合通信局 情報通信部 部長 長尾 友夫 様</p> <p>第一部 事業者による講演 LINE 株式会社 公共政策室 高橋 誠 様 「ICT を活用した未来がどうなればいいのか想像してみよう」 世の中には変わるもの、変わらないものがある。新しい未来について、いつ・誰が・どこで・何を・どのように利活用していくか、今とは別な発想で考えて欲しいというお話をいただきました。</p> <p>アイスブレイク、自己紹介 8つのグループに分かれ、アイスブレイクの後、各グループ内で自己紹介などを実施しました。</p>
----	---

	<p>第二部：熟議「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～」 グループに分かれ福岡県立大学の学生のみなさんがファシリテーターとなって、高校生熟議を開始しました。メモや付箋紙を活用しながら模造紙に貼り付けて意見を整理分類しまとめて行きました。</p> <p>第三部：グループ発表 各グループともプレゼンテーションソフトを活用して3分程度の発表を行いました。（詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください）</p> <p>その後、参加生徒により、11月3日に開催される東京サミットに行く代表校の選定投票を行い、福岡県立博多青松高等学校が代表校に選出され、発表されました。最後に、LINE株式会社 公共政策室 高橋 誠様より、ご講評をいただきました。</p>
参加校	<p>北九州市立高等学校 福岡県立福岡高等学校</p> <ul style="list-style-type: none"> 〃 福岡中央高等学校 〃 福岡講倫館高等学校 〃 博多青松高等学校 〃 城南高等学校 〃 ひびき高等学校 〃 遠賀高等学校 〃 香椎高等学校 〃 春日高等学校 〃 朝倉東高等学校 〃 糸島高等学校（順不同）
日時	2017年8月26日（土） 11:30～17:00
場所	都久志会館（福岡県市中央区天神 4-8-10）
参加人数	<p>熟議参加生徒44名 見学者39名（教員、教育関係者、その他） 合計83名</p>
熟議グループ	<p>（敬称略）</p> <p>【A班】 チームハーレム 【ファシリテーター】 福岡県立大学森美鈴 【書記】 子どもねっと会議所久野慶子</p> <p>【B班】 チームダイソン 【ファシリテーター】 福岡県立大学青木 【書記】 子どもねっと会議所二宮</p> <p>【C班】</p>

<p>【ファシリテーター】 福岡県立大学上野瑞季 【書記】 子どもねっと会議所原加代子</p> <p>【D班】 ブルゾン春奈with6 【ファシリテーター】 福岡県立大学藤井春奈 【書記】 子どもねっと会議所渡邊亜紀</p> <p>【E班】 #お弁当は美味しかった 【ファシリテーター】 福岡県立大学梅木史織 【書記】 子どもねっと会議所西藤知子</p> <p>【F班】 神神生(こうこうせい)☆ 【ファシリテーター】 福岡県立大学関寿真 【書記】 子どもねっと会議所大塚かおり</p> <p>【G班】 ファイヤードラゴン 【ファシリテーター】 福岡県立大学佐野日花莉 【書記】 子どもねっと会議所橋本晴子</p> <p>【H班】 ミネラルウォーター（圧力多め） 【ファシリテーター】 中本夏紀（福岡県立大学） 【書記】 廣瀬順子（子どもねっと会議所）</p>
--

主担当

安心ネットづくり促進協議会	事務局
子どもねっと会議所、福岡県人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課 福岡県立大学	司会、ファシリテーター、会場調整、 什器備品手配、飲食手配、庶務他
各団体、事業者等	講演、ノベルティ、資料提供 他

18. 高校生 ICT Conference 2017 in 大分 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など134名の参加者を得て、「高校生が考える心豊かな生活 ～ICT×(家族・学校・地域)～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>【リアル熟議】 司会進行・主旨説明 ハイパーネットワーク社会研究所 原田 美織 様 高校生 ICT Conference の概要及び本日の大まかな流れを簡単に説明していただきました。</p>
----	--

開会の挨拶

公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所副所長 渡辺 律子様

以下についてお話しいただきました。

- ・急速に発展していくネット社会を生き抜くために、どんなことに注意して、どんなことに取り組んだらいいのか、ぜひ皆さん自身が主体的に考えてもらう場であると。
- ・今日は必ず自分自身の目標を持って取り組むこと。例えば、人とお話するのが苦手な人は、自分の意見を人に伝える努力をすること。
- ・大学生や専門学校生の学生の皆さんには、今日は仕事をするとおぼやかって、その任務をしっかりと務めて欲しいこと。
- ・大分では2013年から開催し、今回で5回目の開催であること。
- ・大分では2010年にケータイ甲子園という高校生が前向きに携帯の利用について議論・発表をする場を全国に先駆けて開催し、また情報モラルの普及啓発も全国に先駆けて取り組んでいる先進県であること。そうした背景を知っていただき、さらにこれからも地域をあげて取組の先進県で有り続けるように皆さまご理解と、ご協力をお願いしたいこと。

ご来賓挨拶

総務省 九州総合通信局 情報通信部 部長 長尾友夫 様

以下についてお話しいただきました。

- ・2011年当時は、10代のスマートフォン利用は、だいたい全体の2割ぐらいとされているが、現在は8割を越え、4倍になっている状況であること。
- ・メールやSNSでの利用が多いが、10代に限ると動画投稿サイトやゲームでの利用の割合も高くなっていること。総務省では利用の実態を調査して白書として公開していること。
- ・皆さんの生活でもスマホを使わない生活は想像できない状況ではないかと思う。ただし、5年後、10年後、どういったサービスが普及しているのかというのは誰にもわからない。そういう意味でも皆さんの普段の経験やいろんな観点で大いに議論をして欲しいこと。

第一部 事業者による講演

アマゾンウェブサービスジャパン株式会社

プロフェッショナルサービス本部 コンサルタント 松本 照吾 様

以下についてお話しいただきました。

- ・ちょっと先の未来を意識して、新しい”モノ・サービス”をつくるためのやり方、考え方について。
- ・実践につなげるため、利活用のための工夫、種になることを考えていくこと。

参加校 学校紹介 および グループ分け

参加学校ごとに、簡単に学校紹介と自己紹介をしていただきました。

自己紹介の後、10つのグループに分かれ、各グループ内で自己紹介などを実施しま

	<p>した。</p> <p>第二部：熟議「ネットトラブル！どうする？【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」</p> <p>グループに分かれ、ファシリテーターは大学等の学生の方が担当し、高校生熟議を開始しました。メモや付箋紙を活用しながら模造紙に貼り付けて意見を整理分類しまとめて行きました。</p> <p>また企業の方もサポーターとして入っていただきました。専門的な質問が出るとすばやく答えてくださいました。ファシリテーターは事前にフォームやまとめ方を打ち合わせして、滞りなくまとめることができました。（詳細は別紙「グループ熟議録」をご参照ください）</p> <p>その後、参加生徒により、11月3日に開催される東京サミットに行く代表校の選定投票を行い、大分東明高等学校が代表校に選出され、発表されました。</p> <p>全体講評</p> <p>大分県生活環境部 私学振興・青少年課 課長 森高 美代子様</p> <p>以下についてお話しいただきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このカンファレンスには3つの大きな意義があり、まず1つは皆さんが、今高校生であり、選挙権も18歳からということで、すでに選挙権を持っている高校生もいると思うが、そういう方々がこうした議論に参加し、大分県という地域、社会を考える機会になったことを嬉しく思ったこと。 ・2つ目はICTがテーマであること。高齢者がICTを活用するのが難しいという意見がたくさんあがったが、これからICT社会を作っていく皆さんが、そのことに気づき、しっかり議論するということが、非常に重要であること。 ・3つ目は、カンファレンスという手法。今日のはじめて会う人が多かったと思うが、そういう人たちの中で、自分の意見を言って、相手の意見を聞き、グループの意見をまとめていくこと、発表で伝えることなど、『思いを形に繋げること』を経験したこと。 ・なによりも大分県として嬉しかったのは、地域の課題に真剣に取り組んだグループが多かったこと。 ・高齢者の健康管理、安否確認、なかなか会えないおじいちゃんおばあちゃんたちとのコミュニケーションを充実させるアイデアもあった。ただし、審査では、グループのアイデアだけでなく、グループの中で果たした役割や、議論に参加する姿勢も基準としたこと。 ・ぜひこれからも、大分県の地域活動で今日の思いを実践していただければと思うっていること。
<p>参加校</p>	<p>大分県立大分工業高等学校 大分県立津久見高等学校 大分県立中津東高等学校 大分県立大分商業高等学校</p>

	大分国際情報高等学校 大分東明高等学校 大分県立別府翔青高等学校 別府溝部学園高等学校 大分県立佐伯豊南高等学校 大分県立大分雄城台高等学校 大分県立大分鶴崎高等学校 大分県立別府鶴見丘高等学校 大分県立情報科学高等学校 大分県立鶴崎工業高等学校（順不同）
日時	2017年8月27日（日）10:00-16:00
場所	大分県消費生活・男女共同参画プラザ 大会議室
参加人数	熟議参加生徒47名 見学者86名（教員、教育関係者、その他） 合計134名
熟議グループ	（敬称略） ◆【グループ番号 1 : グループ名 たこま】 【学生ファシリテーター】伊藤大貴(学校名：大分大学大学院) 【学生書記】藤田 瑞樹(学校名：IVY総合技術工学院) 【大人ファシリテーター】首藤 麻衣(所属：日立市立北部中) ◆【グループ番号 2 : グループ名 Musicers】 【学生ファシリテーター】細川航平(学校名：大分大学) 【学生書記】吉田真也(学校名：IVY総合技術工学院) 【大人ファシリテーター】渡辺 律子(所属：ハイパーネットワーク社会研究所) ◆【グループ番号 3 : グループ名 ゴールドレッド】 【学生ファシリテーター】名前：竹下 歌(学校名：日本文理大学) 【学生書記】名前：阿南 大介(学校名：IVY総合技術工学院) ◆【グループ番号 4 : グループ名 野菜ラーメン~Let's go Tokyo!~】 【学生ファシリテーター】梶原 百香(学校名：日本文理大学) 【学生書記】吉良 千恵美(学校名：IVY 総合技術工学院) 【大人ファシリテーター】芳崎 哲也(所属：ハイパーネットワーク社会研究所) ◆【グループ番号 5 : グループ名 sekai no hajimari】 【学生ファシリテーター】萱島翔太(学校名：日本文理大学) 【学生書記】長野祐希(学校名：IVY総合技術工学院) 【大人ファシリテーター】黒川智子(所属：ハイパーネットワーク社会研究所) ◆【グループ番号 6 : グループ名 ジェットどりーむ。】

	<p>【学生ファシリテーター】 釘宮 友一(学校名：IVY総合技術工学院)</p> <p>【学生書記】 西田 翔偉斗(学校名：IVY総合技術工学院)</p> <p>【大人ファシリテーター】 黒川 智子 (所属：ハイパーネットワーク社会研究所)</p> <p>◆【グループ番号 7 : グループ名 やきいも】</p> <p>【学生ファシリテーター】 広瀬 雅季(学校名：IVY総合技術工学院)</p> <p>【学生書記】 西村 光太(学校名：IVY総合技術工学院)</p> <p>【大人ファシリテーター】 七条 麻衣子 (所属：株式会社ラック)</p> <p>◆【グループ番号 8 : グループ名 GMK (グループ名決まらない)】</p> <p>【学生ファシリテーター】 名前：永住 侑聖(学校名：IVY総合技術工学院)</p> <p>【学生書記】 名前：姫嶋 太一(学校名：IVY総合技術工学院)</p> <p>【大人ファシリテーター】 名前：七条 麻衣子 (所属：株式会社ラック)</p> <p>◆【グループ番号9 : グループ名:ドナルドダックが好きです。】</p> <p>【学生ファシリテーター】 名前：長野仁瑛(学校名：IVY総合技術工学院)</p> <p>【学生書記】 名前：南皓太(学校名：IVY総合技術工学院)</p> <p>【大人ファシリテーター】 名前：土井敏裕 (所属：大分県教育委員会)</p> <p>◆【グループ番号 10 : グループ名 NKEAP】</p> <p>【学生ファシリテーター】 吉田隆(学校名：IVY 総合技術工学院)</p> <p>【学生書記】 堀川和真(学校名：IVY 総合技術工学院)</p> <p>【大人ファシリテーター】 名前：荒巻久美子 (所属：ハイパーネットワーク社会研究所)</p>
--	--

主担当

安心ネットづくり促進協議会	事務局
大分県 公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 IVY 総合技術工学院、日本文理大学、大分大学	司会、ファシリテーター、会場調整、 什器備品手配、飲食手配、庶務他
各団体、事業者等	講演、ノベルティ、資料提供 他

19. 高校生 ICT Conference 2017 in 鹿児島 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など 37 名の参加者を得て、「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×(家族・学校・地域)～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>【リアル熟議】 司会進行・主旨説明 草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会 常務 吉岡 良平 様 高校生 ICT Conference の概要及び本日の大まかな流れを説明していただきました</p>
----	---

た。

開会の挨拶

総務省九州総合通信局 情報通信部 電気通信事業課長 氏家 宏之 様

高校生 ICT Conference は今年度全国 17 ヶ所で開催する。九州は福岡、大分、鹿児島と 3 ヶ所開催し全国最多の地域である。九州総合通信局では九州管内で出前講座なども開催しており情報リテラシーについて考え、将来の活用の一助とするべく活動している。インターネットはもはや生活の基盤となっており使わないというわけにはいかない。フィルタリングすれば問題の解決になるか？そんな単純なものでもない。大人になる前に正しい判断（モラル）と能力（リテラシー）を身に着けることが重要で本 Conference は良い機会である。県代表は 11/3 の東京サミットに招待されるどうか鹿児島パワーを見せて頂きたい。とのお言葉を頂きました。

第一部：事業者等による講演

鹿児島県警察本部 サイバー犯罪対策室 田代 耕基 様

世の中で実際に発生した事例をもとに、『サイバー犯罪＝インターネットを使った犯罪』と定義頂き、スマートフォンでの事例を中心にインターネットは必ず使われる事、ネットトラブル発生の詳細、自分が犯罪者になる可能性があること、実際に警察に相談が来た事例を元にした対処方法も参加生徒にもわかりやすくご説明いただきました。

株式会社カスペルスキー 九州営業所 所長 宮崎 優 様

IT セキュリティ脅威の変遷と対策についてセキュリティの専門会社の観点から最近のサイバー攻撃の傾向、脆弱性対策とは、どんな人が攻撃しているか、感染するとどうなるかを実際にウィルス（ランサムウェア）の感染の映像を交えながら、対策も含め参加生徒にもわかりやすくご説明いただきました。

各プレゼンの内容をしっかり参加生徒はメモをとりながら次の熟議に備えていました。各プレゼンの内容も 現在の問題点、今後の課題、これからの活用方法、企業の立場からの提案などが盛り込まれていて見学者・関係者にも大変有意義なものでした。

アイスブレイク、 自己紹介

3 つのグループに分かれ、アイスブレイクの後、各グループ内で自己紹介などを実施しました。

昼食は、会場が鹿児島大学の施設内ということで参加生徒に大学の雰囲気を感じて頂くために鹿児島生協のご協力の基、学食のミルカードを利用して大学内の中央食堂にて昼食をとりました。グループ単位に纏まって昼食をとりサポートするファシリテーターや書記の方々も加わり当初は初対面でいくぶん緊張していた参加生徒の

	<p>表情も穏やかになっていくのが感じ取れました。</p> <p>第二部：熟議「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～」 グループに分かれ参加校の引率先生がファシリテーターとなって、高校生熟議を開始しました。メモや付箋紙を活用しながら模造紙に貼り付けて意見を整理分類しまとめて行きました。</p> <p>第三部：グループ発表 各グループともプレゼンテーションソフトを活用して3分程度の発表を行いました。</p> <p>その後、参加生徒により、11月3日に開催される東京サミットに行く代表校の選定投票を行い、鹿児島水産高等学校が代表校に選出され、発表されました。</p> <p>最後に、特定非営利活動法人鹿児島インフォメーション 森 邦彦理事長より講評をいただきました。</p>
参加校：	鹿児島情報高等学校 鹿児島県立鹿児島南高等学校 鹿児島県立鹿児島水産高等学校（順不同）
日 時：	2017年8月26日（土） 9:30-16:00
場 所：	鹿児島大学 学習交流プラザ（鹿児島市郡元一丁目21-24）
参加人数：	熟議参加生徒 14人 見学者・関係者 23人（教員・教育関係者・その他） 合計：37人
熟議グループ：	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略） <p>【グループ名：1班】 鹿児島情報高等学校(3名)、鹿児島南高等学校(1名)、鹿児島水産高等学校(1名) 〔ファシリテーター〕 特定非営利活動法人鹿児島インフォメーション 今井 誠 〔書記〕 特定非営利活動法人鹿児島インフォメーション 湊田 孝康</p> <p>【グループ名：2班】5名 鹿児島情報高等学校(2名)、鹿児島南高等学校(2名)、鹿児島水産高等学校(1名) 〔ファシリテーター〕 特定非営利活動法人鹿児島インフォメーション 久永 忠範 〔書記〕 特定非営利活動法人鹿児島インフォメーション 古屋 保</p>

	<p>【グループ名：3班】4名 鹿児島情報高等学校(2名)、鹿児島南高等学校(1名)、鹿児島水産高等学校(1名) [ファシリテーター] 特定非営利活動法人鹿児島インフォメーション 永徳 昭人 [書記] 特定非営利活動法人鹿児島インフォメーション 中村 喜寛</p>
--	---

主担当

安心ネットづくり促進協議会	事務局
	会場調整、什器備品手配 飲食手配、庶務
各団体、事業者等	講演、ノベルティ、資料提供 他

20. 高校生 ICT Conference 2017 サミット 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など116名の参加者を得て、「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×(家族・学校・地域)～」をテーマに、高校生 ICT Conference 2017 各開催地域の代表者と福井からの招待参加を含めて合計18名の高校生が、各開催地の結果を持ち寄り、3つのグループに分かれて活発な議論と発表を行ないました。</p> <p>【開会の挨拶】 高校生 ICT Conference 実行委員会 委員長 米田 謙三 先生 東京電機大学 学長 安田 浩 様</p> <p>本日の全体進行役の高校生 ICT Conference 実行委員会 委員長 米田 謙三 先生より、高校生 ICT Conference の主旨説明と本日の大まかな流れについてご説明いただきました。また、東京電機大学 学長 安田 浩 様より、ビデオメッセージで開会の挨拶をいただきました。</p> <p>【ご来賓挨拶】 内閣府 政策統括官付 青少年環境整備担当 参事官 堀 誠司 様</p> <p>内閣府の堀様からは、次の時代を担うのが本日参加している高校生であり、高校生自身が ICT やネットの問題について議論することは非常に実りのあることであるというお話をいただきました。また、本日の議論では、高校生の皆さんのセンスや考え方、才能を余すことなく発揮して熟議に取り組んでほしいとの激励のお言葉をいただきました。</p> <p>総務省 総合通信基盤局 電気通信事業部 消費者行政第一課長 徳光 歩 様</p> <p>総務省の徳光様からは、青少年のインターネット利用環境の整備については各府省庁連携して取り組んでいる重要な課題であり、関係府省庁だけでなく、事業者や団体等も含めオールジャパンで取り組んでいるとのお話をいただきました。その中</p>
----	---

で、熟議を通じて高校生ひとりひとりがネットの問題について考え、取り組んでいくことは非常に大切であること、自宅に帰ってからも家庭や学校等で本日議論した内容について話あっていただき、伝えていってほしいとのお言葉をいただきました。

経済産業省 商務情報政策局 情報経済課 係長 大関 尚人 様

経済産業省の大関様からは、本日の熟議では自信をもって議論してほしいということ、また、大人みんなに教えてあげる位の気持ちでディスカッションに取り組んでいただければとのお言葉をいただきました。

【各開催地域代表生徒の自己紹介、地域の取組の紹介（各3分）】

アイスブレイクとして各地域代表生徒が持参したお土産の紹介と、自己紹介も兼ねた各地域の熟議内容の報告や招待参加校の取組の紹介を以下の順番で行いました。お土産の選定もよく考えられていてそれぞれ個性豊かに特徴が出ており、また、3分間という限られた時間の中で、代表の生徒は各地域での熟議の内容を上手に発表していました。

- ①鹿児島県立鹿児島水産高等学校 1年 男子
- ②大分東明高等学校 2年 女子
- ③福岡県立博多青松高等学校 2年 女子
- ④高知県立須崎高等学校 3年 女子
- ⑤野田学園高等学校 2年 男子
- ⑥奈良大学附属高等学校 2年 男子
- ⑦関西学院千里国際高等部 3年 女子
- ⑧三重県立桑名北高等学校 2年 男子
- ⑨日本大学三島高等学校 2年 男子
- ⑩長野県立高遠高等学校 3年 男子
- ⑪石川県立金沢伏見高等学校 2年 女子
- ⑫新潟第一高等学校 2年 男子
- ⑬クラーク記念国際高等学校 3年 男子
- ⑭茨城県立土浦工業高等学校 1年 男子
- ⑮仙台城南高等学校 3年 女子
- ⑯北海道釧路明輝高等学校 1年 女子
- ⑰北海道札幌東豊高等学校 3年 女子
- ⑱福井県立敦賀工業高等学校 3年 女子（招待参加）

【グループ熟議・発表資料作成・リハーサル】

進行役の米田先生から本日のファシリテーターの紹介があり、本日の熟議内容の発表までのスケジュール説明がありました。今回のグループ熟議は3つのグループ（家族・学校・地域）に分かれて進められました。それぞれのグループで熟議の進め方やペースは違っていました。付箋を利用して模造紙に貼り付け、項目に分類

しながら、役割分担もして工夫しながらまとめていきました。それぞれのグループで ICT×（家族・学校・地域）について、熱く議論が交わされました。

【グループ発表】

各グループともプレゼンテーションソフトを活用して4分程度の発表を行いました。各グループの発表タイトルと発表概要は以下のとおりです。

グループ1：ICT×家族

グループ1では、「ICT×家族」をテーマに心豊かな生活について熟議を行いました。寸劇を交え、ICTの「良い面」、「悪い面」、「問題点」、「解決策」について発表があり、「まとめ」として、家族が一番身近な存在であり、思いやることが大切との提言が発表されました。

グループ2：ICT×学校

グループ2では、「ICT×学校」をテーマに心豊かな生活について熟議を行いました。心の豊かさは個人個人で違うということ、学校は直接つながる場であるということが発表され、ICT（子供）と趣（大人）を情報交換するイベントについて提案がありました。さらに、日本独自の趣という考え方を日本から世界に情報発信していくといった提言が発表されました。

グループ3：ICT×地域

グループ3では、「ICT×地域」をテーマに心豊かな生活について熟議を行いました。災害時のSNSの利用について寸劇を交えて発表があり、災害時の対応から地域とICTのつながりについて提言が発表されました。

【講評】

文部科学省 生涯学習政策局 青少年教育課長 土肥 克己 様

文部科学省の土肥様より、本日の講評をいただきました。土肥様からは、ご自身の体験談等も踏まえ、家族が基本的な単位であり、家族でコミュニケーションをすることが重要であるということ、職場でもコミュニケーション不足を感じることもあるが、学校においてもリアルにつながる場とICTの活用が必要であるということ、テクノロジーを活用して地域をつなげるといった発表もあったが、そのような未来においてうまく高校生のみなさんがアドバイスをしてほしいといった、貴重なお話をいただきました。

【代表選考、発表】

今回の参加生徒の中から、12月に開催予定の最終報告会に参加する代表者3名を選出しました。代表校は以下のとおりです。

- ・グループ1：三重県立桑名北高等学校 2年 男子
- ・グループ2：関西学院千里国際高等部 3年 女子
- ・グループ3：福岡県立博多青松高等学校 2年 女子

	<p>【閉会の挨拶】</p> <p>大阪私学教育情報化研究会 会長 井藤 眞由美 様</p> <p>最後に大阪私学教育情報化研究会の井藤様から閉会の挨拶をいただきました。井藤様からは高校生の熱い議論と素晴らしい発表に対して感謝と、関係者への労いのお言葉をいただきました。また、高校生の発表から、個人個人の豊さを見つけて選んでいってほしいこと、甲羅を破って進んでいってほしいとの激励のお言葉もいただきました。</p> <p>最後に参加した高校生全員で集合写真を撮影し、進行役の米田先生から今後の説明をいただいて、高校生 ICT Conference2017 サミットを終了しました。</p>
参加校：	<p>北海道札幌東豊高等学校 3年 女子</p> <p>北海道釧路明輝高等学校 1年 女子</p> <p>仙台城南高等学校 3年 女子</p> <p>茨城県立土浦工業高等学校 1年 男子</p> <p>クラーク記念国際高等学校 3年 男子</p> <p>新潟第一高等学校 2年 男子</p> <p>石川県立金沢伏見高等学校 2年 女子</p> <p>長野県立高遠高等学校 3年 男子</p> <p>日本大学三島高等学校 2年 男子</p> <p>三重県立桑名北高等学校 2年 男子</p> <p>関西学院千里国際高等部 3年 女子</p> <p>奈良大学附属高等学校 2年 男子</p> <p>野田学園高等学校 2年 男子</p> <p>高知県立須崎高等学校 3年 女子</p> <p>福岡県立博多青松高等学校 2年 女子</p> <p>大分東明高等学校 2年 女子</p> <p>鹿児島県立鹿児島水産高等学校 1年 男子</p> <p>福井県立敦賀工業高等学校 3年 女子（招待参加）（順不同）</p>
日 時：	2017年11月3日（金） 13:00-17:00
場 所：	東京電機大学千住キャンパス
参加人数：	<p>熟議参加生徒 18人</p> <p>見学者・関係者 98人（教員・教育関係者・その他）</p> <p>合計：116人</p>

主担当

高校生 ICT Conference2017 実行委員会	司会進行
安心ネットづくり促進協議会	事務局、庶務、撮影等
モバイルコンテンツ審査・運用監視機構	記録、受付等
草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会	庶務等

各団体、事業者等	挨拶、講演、ファシリテーター 他
----------	------------------

(敬称略)

21. 高校生 ICT Conference 最終報告会 開催概要

日 時 :	2017 年 12 月 11 日 (月) 10:00-17:30
10:00-11:00 14:00-16:00 16:30-17:30	文部科学省にて高校生プレゼン、意見交換 内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」にて高校生プレゼン、委員・関係省庁との意見交換会 総務省にて高校生プレゼン、意見交換、政務官との意見交換
場 所 :	〔文部科学省 生涯学習政策局〕 〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-2-2 〔内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」〕 〒100 -8914 東京都千代田区霞が関 3-1-1 中央合同庁舎 4 号館 〔総務省 総合通信基盤局〕 〒100-8926 東京都千代田区霞が関 2-1-2 中央合同庁舎 第 2 号館
テーマ	高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT× (家族・学校・地域) ～
出席者 :	〔最終報告者〕 3 名 【三重県】 三重県立桑名北高等学校 2 年 男子 【大阪府】 関西学院千里国際高等部 3 年 女子 【福岡県】 福岡県立博多青松高等学校 2 年 女子 〔引率〕 3 名 【三重県】 三重県立桑名北高等学校 【大阪府】 関西学院千里国際高等部 【福岡県】 福岡県立博多青松高等学校 〔随員〕 7 名 安心ネットづくり促進協議会 一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会 他、関係事業者・団体 【文部科学省】 生涯学習政策局 局長 大臣官房審議官 (生涯学習政策局担当) 生涯学習政策局 青少年教育課 同 情報教育課 同 社会教育課 同 男女共同参画学習課 【内閣府】「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」

青少年インターネット環境の整備等に関する検討会委員
政府関係者
内閣官房、警察庁、総務省、法務省、文科省、経産省
内閣府
政策統括官（共生社会政策担当）
大臣官房少子化・青少年対策審議官
政策統括官（共生社会政策担当）付青少年環境整備担当参事官

【総務省】

総合通信基盤局長
同 電気通信事業部長
同 電気通信事業部 消費者行政第一課
情報通信国際戦略局 情報通信経済室
同 国際協力課
情報流通行政局 情報流通高度化推進室
関東総合通信局 電気通信事業課

全国 17ヶ所でワークショップ形式の議論を実施し、札幌、帯広、宮城、石川、長野、新潟、東京、神奈川、静岡、三重、大阪、奈良、山口、高知、福岡、大分、鹿児島からそれぞれ代表者 1 名を選出。福井からの招待参加を含め、合計 18 名による高校生 ICT Conference2017 サミットを経て、最終報告会にサミット参加の高校生から代表者 3 名が、文部科学省、内閣府（青少年インターネット環境の整備等に関する検討会）、総務省において、高校生 ICT Conference2017 で得られた成果を発表しました。

最終報告の内容は主に以下の通り。

【高校生による報告】

『高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～ 』最終報告

11月3日に行われたサミットにおいて、参加した生徒は3つのグループに分かれ、家族、学校、地域とICTの利活用について話し合った。その結果を報告する。

I. ICT×家族「ICTと家族の上手な付き合い方について」

（三重県立桑名北高等学校 2年 男子）

1. 共通の理解の確認

・私達の「心豊かな生活」とはどのようなこと？

⇒人によって心豊かな生活についての認識が違う。様々な価値観がある。

2. 家族間で起こる ICT トラブル

（1）SNSなどを使い、言葉を送るだけでは気持ちや思いが伝わらない。

⇒お互いの意見が通じ合うということが豊かな生活に繋がる。

（2）家族間で SNS に対して求めるものが異なる。

⇒親はスマートフォンを遊び道具と見ており、子供は勉強に必要な教材だと思っている。

（3）スマートフォンは手軽な連絡方法であるため、必要のないことまで聞いてしまい、思い違いを生んでしまう。

3. 家族同士での ICT のより良い活用

（1）家族間のコミュニケーションは面と向かって言葉や表情で伝えることが大切。

（2）スマートフォンは補助的な道具であり、道具として適切に利活用することが、心豊かな生活につながる。

II. ICT×学校

（関西学院千里国際高等部 3年 女子）

2015年9月に国連総会で採択された、「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals, SDGs）」に謳われているように、誰もが心身共に健康である権利をもち、ICTの発達によって世界中でハイレベルな教育を受けることができるようになった。学校は、人が生きていくために必要な力を身につける場所である。生き方に様々な選択肢がある中で共通しているのは、心身ともに健康であるということ。役割の多い学校とICTをつなげることにより、心豊かな生活が実現すると考える。

1. 共通理解

「心豊かな生活」⇒各自価値観が違う⇒豊かな生活も個々に異なる。

「学校とは？」⇒SNSの普及によってリアルコミュニケーションが少なくなっているため、家庭以外の人と現実世界で繋がれる唯一の場である。

2. 生徒と ICT

SNS は生徒と ICT をつなぐ一番の方法である。

Twitter や Instagram は、個人の趣味や興味をアップロードし、「いいね」をもらう軽いつながりである。こうしたアプリは一方的なコミュニケーションの要素であるが、LINE などにはもう一歩深い、相互的なつながりができる。

SNS を通じていつも様々な人とつながりあうことで、人のぬくもりを感じる。他人に認められたいという欲求が生まれることで実生活がより心豊かな生活へと変わっていく。

SNS を用いてつながりを求めるのは、リアルなコミュニケーションが薄れているからである。実際に会う以外の人とのつながりを求めるがゆえに他人に興味を持ち、自分の興味を認められたい。

3. リアルと ICT

このようなつながりが生まれることにより、ICT をより活用して心豊かな生活が実現できる。

4. 私達ができること

(1) 高校生と高齢者の相互の知識の共有と交換

デジタルネイティブな若者が高齢者に ICT を、高齢者が若者に日本人の経験や知恵を相互に教えあうイベントを開催する。

(2) 世界どこでも部屋

学校において生徒が中心となり、(1) で学んだ日本人特有の知恵や文化に関して、ICT を使って世界へ発信する。

Ⅲ. ICT×地域「心豊かな生活とは」

(福岡県立博多青松高等学校 2年 女子)

IT よりも ICT という言葉を聞くようになった。コミュニケーションの部分がより重要になり、インターネット上だけでなく、直接会う Face to face の大切さが求められているからではないか。

平成 24 年度総務省情報通信白書には災害時の技術面の対応・金銭面の援助等について記載されているが、スマートフォン等、情報を得るための機器を持っていない人も多い。ICT を利用している人とそうでない人がつながるため、また ICT が無い状況でも助け合うため、白書にもある「きずな」が大切なのではないかと考えた。

(1) 災害に備えた救命訓練

公民館などで救命訓練を行う。災害対策になると共に、地域で Face to face のつながりが生まれる。ハザードマップの確認や災害地の方のビデオ通話をつなげるなど、高校生が主体に企画し実施することで地域に関心を持つきっかけになる。つまり、地域のきずなを深める事につながっていく。

(2) 災害時の活動

被災者に話を聞いたとき、「災害時に一番力になるのは、顔を見て挨拶をする、話す、笑い合うことだ」と教えられた。その行動は、大人や子供より、まず高校生が実行可能なことだと思う。ICT を活用してこの考え方を広げたい。ICT の発展は『豊かな生活』につながるが、これは『心豊かな生活』とは異なる。ICT を活用し、自分たちで考え、生活を豊かにしていこうとすることが、心豊かな生活なのではないか。この認識を高校生が持ち、ICT を広めていきたい。

身近な世代が先生として授業をするもの。

ICT の発展は豊かな生活に繋がりますが、「豊かな生活」で「心豊かな生活」ではない。

「心豊かな生活」とは人それぞれ異なるため、ICT で生活を豊かにするのではなく、ICT を活用し自分たちで考えて、生活を豊かにしていこうとすることが「心豊かな生活」では無いかと考えます。

<文部科学省 意見交換会>

(文部科学省 以下文科省) 着眼点がすばらしい。現実社会を大切にしていることが重要だと思う。ネット依存による事件が起きている中、リアルな世界を充実させていくために ICT を使っていくという考え方に感動した。同世代へさらに広めていく方法について、どう考えているか聞かせてほしい。

(生徒 A) 我々高校生はデジタルネイティブと呼ばれるが、だからこそ、危険がわかると思う。ICT モラル授業を発展させていくことで、より理解できるのではないか。

(生徒 B) 今回の高校生 ICT Conference を通じて学んだことだが、学校では ICT に関する講演があり、授業でネットトラブルについて学び、知識もたくさんある。実際に高校生が意識して変えていかなくてはと思うためには、指導を受けるだけではなく、自分で考えることが大事だと思う。この意識を広めるためには、こうした高校生 ICT Conference のような場をもっと設けていくと良いと思う。

(生徒 C) ICT に関する講習を受ける機会があるが、聞いているだけで自ら考えることがない。危険についても他人事のように感じてしまうので、より良い活用の仕方、問題点などについて意識を持たせることが大切ではないか。

(文科省) 全国の仲間と議論をする場を持った皆さんが、身近な友達にどうやって広げていくか、ハードルが高いと感じるかもしれないが、それを打開するのはコミュニケーションの力が強いと思うので、自分たちで提案、実行できるよう頑張っていたきたい。

(文科省) スマートフォンのやりとりだけでは細かいニュアンス、気持ちを伝えるのは難しいと思う。そこに着目しているのが素晴らしいと思った。補助的に活用することで家族のコミュニケーションがうまくいったことがあれば教えてほしい。

(生徒 C) 家族とはメール等ではなく、できるだけ顔を合わせて話している。

(生徒 A) 父が倒れたとき、電話がなかったら気付くことができなかったのでコミュニケーションツールの重要性がわかり、また、そのおかげで安心できた。ICT をフル活用した瞬間だった。

(生徒 B) 父が単身赴任なので、コミュニケーションが必要だが物理的に難しい。SNS を使えばすぐつながることができる。一番大切なのは顔を見て話すことだが、次はメールよりも電話で話すことがいいと思い、そのように行動している。

(文科省) 東日本大震災のときも、普段から地域が顔を合わせているところは避難所が迅速に立ち上がり、対応できたと聞いている。いざというときには、高齢者に教えてあげる必要があると思うので、対応してほしい。今回、映像(動画)を使ったコミュニケーションに関しては、話は出たか。

(生徒 B) 消防とつながって救命手順を動画でみながら学ぶのは必要だ、という話をした。また、被災地とテレビ通話等でつながって Face to face で経験を聞くことは一番心に響くと思う。細かい質問もテレビ通話等を活用するのが良いと思う。

(生徒 A) ICT を使って世界とつながるのはとても素晴らしいことだと思うので活用していきたい。

(生徒C) 問題点として、悪ふざけ、モノを粗末にしたり誰かを不愉快にしたりするような動画はあげないほうがいい。

(文科省) 自分が生徒として学んだ時期の情報モラル授業は、やってはいけないことを教えられるばかりだった。今の高校生は自分たちで考え、問題点を見つけて当事者意識をもって取り組んでいく姿勢が素晴らしいと思った。高校生としての立場で、下の学年の子どもたちに伝えたいことがあれば聞かせてほしい。

(生徒A) スマートフォン禁止の学校が多いが、自分が学んでいる学校はそうした規則は無い。他校の生徒から、「ダメといわれたら反発する気持ちが生まれるので、自分たちで納得できるルール作りをしよう」という考えが生まれた」という話を聞き、なるほどと思った。責任付きの自由を持つことで、問題行動は起こらないと思う。

(生徒B) 教えるというよりは、一緒に考えることが大切ではないか。家庭でスマートフォンの利用時間を決めていたり、高校生になるまで持たせないとしていたりする家庭もある。大人はトラブルを回避するために、使用禁止にしたり制限を加えたりすると思うが、子供は納得できず、反発したりする。高校生は自分で考えることが重要だが、下の世代は知識・経験も少ないので一緒に考えてあげることが大切だと思う。

(生徒C) 低年齢化が進んでいて、幼稚園児や小学生はデジタル画面に慣れておりアナログ時計の見方がわからない状況があると聞いた。やはり、小さいころはスマートフォンを持たせない対策が必要ではないか。

(文科省) 座間市の事件はどのように受け止めたか。Twitter で知り合った人と実際に会うことをどう思うか。

(生徒A) 違和感がある。Twitter 上はいくらでも嘘をつけるから、相手を優しい人だと勘違いしやすい。会ったことが無い人には近づかないよう親がちゃんと教えるべき。

(生徒B) Twitter で知らない人と会うことに違和感がない人もいる。心が不安定な状態の友人が近くにいるが、こうなってもおかしくないと思った。文字のやりとりと、直接会うという行為のあいだが一気に抜けていると感じている。例えば電話などがあいだにあっている。そこが抜けているのが問題だと思うし、それがおかしいと思わない人がいることが怖いと感じた。そのような感覚のままだと自分も同じ目に合うかもしれないという意識を持つことが大切だと感じた。

(生徒C) Twitter で裏アカウントを持っている人がいる。首吊り師みたいな人に会ってしまうと、周りにも危険性が伴う。アカウントはひとつでいいのではないか。

(文科省) 心の闇を抱えないことが一番大切なのかと思う。それから、「インスタ映え」という言葉が流行語になった。リアルが充実していることをアピールして、他人に認められないと不安に思うという

人たちの集まりに見えるのだが、どのように感じていますか。

(生徒 A) 楽しんでやっていたら、と気楽に使っているのだと思う。

(生徒 B) インスタ映えを求める理由は、周りからいいねと思われたいということから来ていると思う。SNS の評価だけを気にしないためには、現実世界で評価されるようになればいい。その割合が増えてくると、ほどよい評価を求めるようになるのではないか。

(生徒 C) Instagram でアップする写真を撮るためだけに食べ物を求め、実際に食べないことがあると聞くので、現実の生活で認められることが何より大切だと思う。

(文科省) 最後に一人一言ずつお願いします。

(生徒 C) 自分で触れていないと、ICT のことを考える機会がなかった。貴重な場に参加させていただき、感謝しています。

(生徒 A) このような場で発表することができ、とても楽しかった。高校生 ICT Conference に参加したのは、いろんな経験を持たないと夢を実現できないと思ったから。今後も ICT について考えていきたい。

(生徒 B) 考えることの大切さを、身をもって知った。高校生が企画し運営して、大人がカンファレンスに参加するといった機会があってもいいのではないか。そうした場があれば自分も関わりたい。

(文科省) 大変充実した話をいただき、ありがとうございました。先だって福島での災害時にどんなことがあったか聞く機会があった。遠方の体育館で避難生活において、お世話になっている御礼の一環として皆で体育館周辺の草むしりを実施したとのこと。その後は体育館の雰囲気が変わり、挨拶を交わし、お互いのことを考えるようになったということだった。ICT の活用が進んでも、リアルなコミュニケーションを大切にするという意識を持ち、それぞれの学習、生活の中でより前進していただきたいと思います。本当にありがとうございました。

<内閣府内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」 意見交換>

(内閣府検討会座長代理) 高校生から、本会のメンバーにどんなことを伝えたいのか、どんな意見がほしいのかなどがあれば、もう一言聞かせてください。

(生徒 A) 高校生は何ができるのかについて抽象的な議論をした。実現性などについてアドバイスいただければ嬉しい。

(内閣府検討会構成員) ICT を使った心豊かな生活の実現というと、保護者には (ICT が) 苦手な世代の人もある。豊かになるなら利用したいが、考えることは苦手という場合も多い。保護者にどんなことをしてほしいか。あるいは、自分たちが保護者にこんなことができる、と教えたことはあるか。

(生徒 C) 家族は、SNS ではなく電話や面と向かって感情を伝え合うほうが相手の気持ちがわかり、気を遣うことができるのでそのほうがいい。

(生徒 A) 保護者にはあまり言われたくない。テスト前に携帯没収という話も聞くので、子どもが ICT を使い、どんなことをしているかきちんと説明すべき。自分の家族は全て認めてくれている。学校も自由だからこそ ICT を活用して充実した勉強ができており、親とのトラブルには発展しない。自分たちが保護者にできることはたくさんある。子どものほうが ICT のことをよく知っていることを前提として教えてあげること、親孝行できるのではないかな。

(生徒 B) 保護者というと、スマートフォン利用の制限という印象が強い。トラブルを防止するために駄目というだけだと子どもは納得できず、便利な面がたくさんあるので使いたいと思う。保護者は防止のためにも、どんなトラブルが想定されるのか一緒に考えてほしい。危険性を自分で考えて結論を出さないと、変わっていかないと思う。

(内閣府検討会構成員) これからの未来を作っていく世代を大変頼もしく思う。質問だが、

- ② 皆さんが初めてスマートフォンを手にしたのはいつか？
- ② そのときの保護者との約束事はどんなことだったか？
- ③ はじめたときは依存のようにならなかったか？
- ④ 学校での情報モラル教育で、もっとこうしたほうがいいのかということはないか？

(内閣府検討会構成員) 同様に質問だが、⑤ 困った状況になった友達が周りにいたら、どんな風に助け合うか？

(生徒 C)

- ① 中学 1 年生のとき。
- ② 一日 10 分というルールがあった。
- ③ 中学 3 年生のころからオンラインゲームにはまってしまい、一日 8 時間続けてしまったときはまずいと思った。
- ④ 情報モラル教育は受けていないが、講習で伝えるだけではなく、聞いた人が考えるような内容にしたらどうか。
- ⑤ 特にない。

(生徒 A)

- ① 中学 3 年生のとき。
- ② 約束事はなかった。
- ③ いま、依存しているのかも気付いた。
- ④ 学校でディベートを多めにやっているが、ICT についての問題も取り上げてほしい。考えるだけでは駄目で、行動もできるようにこつこつやろうと思う。
- ⑤ 学校に合わない友人が自分に頼ってくれており、やりとりは SNS のみである。これがあったから友人は学校に来ることができるようになった。ICT の重要性を感じた。

(生徒 B)

- ①小学6年の春休みに買ってもらった。
- ②そのときのルールは特に無かった。
- ③小学・中学と不登校で引きこもりだった。そのときは SNS 上の関係に依存していた。
- ④今まで受けた授業はネットトラブル事例の紹介が主であった。知識はたくさんあるが、自分ごととは思えなかった。今回、高校生 ICT Conference に参加して、自分の身に置き換えて考えることができた。考えるということがとても大切。話し合いはすぐにはできないので、発表や実行など、目標を持たせて話し合わせるとしっかりできるのではないか。
- ⑤不登校の友人と SNS でやりとりするが、文字だけのやりとりは誤解が生まれる。SNS よりは電話、電話よりは会う、というサポートをしている。

(内閣府検討会座長代理) 高校生が ICT とどう付き合っているのか、リアルな声を聞かせていただいた。ICT=危険という話ではなく、活用していく中でリアルなやり取りも必要で、バランスを取って付き合っているということかと思う。教育については、知識を得るという点では非常に有効だけれども、もっと「考える・行動につながる」教育が必要ということだった。これは文科省でも「考え、議論する道徳」への転換ということで小学校・中学校で変わっていき、教育課程全体が「考える、議論する、主体的学び」という方向にあるので、改善が期待されるのではないかと思う。私たちもそれぞれの立場で、皆さんの話を踏まえて取り組んでいかなければいけない。本日はありがとうございました。

(生徒) ありがとうございました。

< 務省 意見交換 >

(総務省) 家族の関係について聞きたい。親はスマートフォンを遊び道具としてしか思っていない、あるいは、スマートフォンを使って角に連絡を取ることは過干渉になるなどの発表があった。ツールの良い面、悪い面があると思うが、皆さんの家族・周囲では、コミュニケーションの手段として、面と向かって行う場合とスマートフォンを利用する場合のバランスが取れているか。

(生徒 A) 自分の家族はバランスがとれている。電話が好きなので直接話す。バランスが取れていない家庭は Face to face が大事になってくると思う。

(生徒 B) 自分の家庭もバランスがとれていると思う。夜少し遅くなるとたくさん連絡がくるが、あまり過干渉と思わない。スマートフォンの有無に関わらず、親が子を心配することは変わらない。

(生徒 C) ふだん親と面と向かって話しているので非常にバランスがとれており、家族にあまり連絡はしない。

(総務省) 熟議では様々な意見が出たと思う。積極的に家族間でコミュニケーションをとろう、ということはお親から言うほうがいいのか、子どもからがいいか。

(生徒 C) 子どもからがいいと思う。

(総務省) 総務省では、ICT を活用して女性の活躍の場を増やすことを考えている。どのような取り組みがよいか、考えることはあるか。

(生徒 A) 女性は男性より力仕事で劣る点があるかもしれないが、ICT は関係ないので、女性がより使いこなせるようになれば仕事の幅が広がると思う。

(総務省) あなたのお母さんはパソコンや携帯など、ICT を使いこなしていると思うか。

(生徒 B) 利便性に頼りすぎるわけでもなく、良い点を活かし、ほどよく使えていると思う。

(総務省) フェイクニュースの問題等もあるが、ICT を使う上で気を付けていることは。

(生徒 A) 私は学校でクリティカルリテラシーを学んでいる。ニュースをうのみにしてはいけないと教えられており、理解しているつもりではあるが、気を付けたい。

(生徒 B) 一つのことに対してたくさんの記事がある。親も含め様々な意見を聞き、決めてかからないようにしている。自分がどう思うかについては輪郭を明確にせず、あえてぼんやりといろいろな情報を見るように心がけている。

(生徒 C) 複数の情報をみて、中立的な立場に立つようにしている。

(総務省) 素晴らしい発表ありがとうございました。皆さんの問題意識、堂々としたプレゼン能力の高さに感心した。ICT をいかにうまく使って心豊かでより良い生活を作っていくか、総務省でもさまざまに考え、啓発活動を行っている。デジタルネイティブの皆さんが自らの頭でどうやって利用していくか考えていくことは、大変重要だと考える。この高校生 ICT Conference の取り組みはとても意義深い。学校に戻ってからも、この経験・知見を友達やご家族に伝えていっていただきたい。最後に、実行委員長、関係各位の皆さまのご尽力により、大変中身の濃い議論になったのではないかと思います。これからもどうぞ宜しくお願いします。

主担当

大阪私学情報教育化研究会 (高校生 ICT Conference 実行委員長)	米田 謙三	概要説明
安心ネットづくり促進協議会	高橋、高木 源、藤井	事務局、庶務
一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構	清水	庶務
一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会	工藤	記録

(敬称略)

以 上